

【表紙】

【提出書類】	有価証券報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成21年6月25日
【事業年度】	第59期(平成20年4月1日から平成21年3月31日まで)
【会社名】	株式会社エクセディ
【英訳名】	EXEDY Corporation
【代表者の役職氏名】	取締役社長 清水 春生
【本店の所在の場所】	大阪府寝屋川市木田元宮1丁目1番1号
【電話番号】	(072)822-1152
【事務連絡者氏名】	取締役 常務執行役員管理本部長 政岡 久泰
【最寄りの連絡場所】	東京都千代田区岩本町2丁目17番2号DBS東京
【電話番号】	(03)3862-2771(代表)
【事務連絡者氏名】	東京営業所長 山戸 俊治
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号) 株式会社大阪証券取引所 (大阪府中央区北浜1丁目8番16号)

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

(1) 連結経営指標等

回次	第55期	第56期	第57期	第58期	第59期
決算年月	平成17年3月	平成18年3月	平成19年3月	平成20年3月	平成21年3月
売上高(百万円)	136,306	153,058	166,745	187,302	166,749
経常利益(百万円)	11,696	15,735	17,378	19,578	8,804
当期純利益(百万円)	6,299	9,353	10,497	11,658	5,441
純資産額(百万円)	76,032	83,925	99,846	110,032	103,248
総資産額(百万円)	123,288	133,440	144,073	158,147	136,907
1株当たり純資産額(円)	1,525.24	1,712.80	1,907.92	2,102.64	1,999.38
1株当たり当期純利益(円)	127.61	186.02	215.09	239.95	112.00
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益(円)	127.59	-	-	-	-
自己資本比率(%)	61.7	62.9	64.3	64.6	70.9
自己資本利益率(%)	8.7	11.7	11.9	12.0	5.5
株価収益率(倍)	14.09	20.48	15.62	11.84	11.10
営業活動によるキャッシュ・ フロー(百万円)	13,369	13,522	20,554	21,825	20,069
投資活動によるキャッシュ・ フロー(百万円)	10,838	15,549	15,741	14,108	21,068
財務活動によるキャッシュ・ フロー(百万円)	333	2,834	3,875	931	3,299
現金及び現金同等物の期末残 高(百万円)	18,892	14,511	15,735	22,422	16,335
従業員数 (平均臨時雇用者数)(人)	5,232 (1,326)	5,682 (1,642)	6,417 (1,808)	7,424 (2,705)	7,549 (2,544)

(注) 1. 売上高には消費税等は含まれておりません。

2. 従業員数の平均臨時雇用者数は()内に外数で表示しております。

3. 第56期から第59期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

4. 第57期より「貸借対照表の純資産の部の表示に関する会計基準」(企業会計基準第5号)及び「貸借対照表の純資産の部の表示に関する会計基準等の適用指針」(企業会計基準適用指針第8号)を適用しております。

(2) 提出会社の経営指標等

回次	第55期	第56期	第57期	第58期	第59期
決算年月	平成17年 3月	平成18年 3月	平成19年 3月	平成20年 3月	平成21年 3月
売上高(百万円)	79,851	87,096	93,735	102,187	92,291
経常利益(百万円)	6,237	8,370	9,372	9,604	4,670
当期純利益(百万円)	2,997	5,528	6,177	6,766	3,528
資本金(百万円)	8,284	8,284	8,284	8,284	8,284
発行済株式総数(千株)	49,793	49,793	48,593	48,593	48,593
純資産額(百万円)	56,435	58,245	61,601	66,340	66,760
総資産額(百万円)	80,365	84,449	89,777	96,333	86,404
1株当たり純資産額(円)	1,132.18	1,188.45	1,267.88	1,365.49	1,374.17
1株当たり配当額 (うち1株当たり中間配当額) (円)	18.00 (7.50)	27.00 (10.00)	34.00 (14.50)	50.00 (17.00)	35.00 (25.00)
1株当たり当期純利益(円)	60.27	109.47	126.57	139.27	72.64
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益(円)	60.26	-	-	-	-
自己資本比率(%)	70.2	69.0	68.6	68.9	77.3
自己資本利益率(%)	5.5	9.6	10.3	10.6	5.3
株価収益率(倍)	29.83	34.80	26.55	20.39	17.11
配当性向(%)	29.9	24.7	26.9	35.9	48.2
従業員数 (平均臨時雇用者数)(人)	1,622 (857)	1,569 (1,004)	1,871 (1,148)	2,159 (1,020)	2,330 (780)

(注) 1. 売上高には消費税等は含まれておりません。

2. 従業員数の平均臨時雇用者数は()内に外数で表示しております。

3. 第56期から第59期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2【沿革】

- 大正12年2月 大阪市生野区に於て初代取締役社長足立一馬が個人企業として創業。
- 昭和25年7月 大阪市生野区に株式会社大金製作所（資本金100万円）を設立。
- 昭和34年2月 埼玉県川口市に川口工場を開設（昭和56年12月同県川越市に移転、川越工場に名称変更）。
- 昭和36年2月 広島県安芸郡に広島工場を開設（平成4年5月同県東広島市に移転、分社してディーケープロナックとする）。
- 昭和38年1月 本社を大阪府寝屋川市に移転。
- 昭和48年6月 北海道千歳市に湿式摩擦材製造合弁会社大金・アールエムを設立（平成2年2月合弁を解消、全額出資会社となり、平成3年4月ダイナックスに社名変更）。
- 昭和48年10月 大阪証券取引所市場第二部に上場。
- 昭和50年8月 鋳造品、鍛造品の内製化のため三重県上野市（現 伊賀市）に上野工場（昭和62年3月上野事業所に名称変更）を開設。
- 昭和52年3月 米国カリフォルニア州に全額出資の販売会社ダイキンクラッチU.S.A.を設立（後にミシガン州に移転し、昭和62年8月ダイキンクラッチに社名変更、平成18年1月エクセディグローバルパーツに社名変更）。
- 昭和52年7月 東京都千代田区に東京営業所を開設。
- 昭和57年12月 米国フォード社よりQ1（Quality No1）証を受賞。
- 昭和60年9月 インドネシアのジャカルタにマニュアルクラッチ製造合弁会社ダイキンクラッチインドネシアを設立（平成18年1月エクセディインドネシアに社名変更、平成19年9月合弁を解消）。
- 昭和60年10月 インドのシーケー・オートモーティブプロダクツ・リミテッドに資本参加（昭和62年11月シーケーダイキンに社名変更）。
- 平成元年11月 英国リバプールにR&D及び販売を行うダイキンクラッチヨーロッパを設立（平成8年1月チェシャーに移転、平成16年1月エクセディクラッチヨーロッパに社名変更）。
- 平成3年12月 愛知県岡崎市に中部営業所を開設。
- 平成5年2月 ハンガリータタパーニャ市にマニュアルクラッチ製造合弁会社ダイキンパーカーニュクラッチを設立（平成10年4月合弁を解消、ユーロエクセディクラッチに社名変更、平成21年4月エクセディダイナックスヨーロッパに社名変更）。
- 平成6年10月 米国テネシー州に自動変速装置用部品製造会社ダイキンドライブトレインコンポーネンツを設立（平成13年10月アイシンホールディングスオブアメリカが資本参加、平成16年4月エクセディアメリカに社名変更）。
- 平成6年12月 タイのチョンブリにマニュアルクラッチ製造合弁会社サイアムディーケーテクノロジーを設立（平成17年1月エクセディタイランドに社名変更）。
- 平成7年5月 オーストラリアビクトリア州に販売合弁会社ダイキンクラッチオーストラリアを設立（平成16年1月エクセディオーストラリアに社名変更）。
- 平成7年6月 米国ミシガン州に自動変速装置用部品製造会社ダイナックスアメリカを設立。
- 平成7年8月 商号を株式会社大金製作所より株式会社エクセディに変更。
- 平成7年11月 本社及び上野事業所、PM特別賞を受賞、川越工場、PM優秀賞を受賞。
- 平成7年12月 中国重慶市にマニュアルクラッチ製造合弁会社重慶三鈴大金離合器製造を設立（平成16年1月エクセディ（重慶）に社名変更）。
- 平成8年9月 マレーシアのネグリスンピラン州にマニュアルクラッチ製造合弁会社エクセディマレーシアを設立。
- 平成8年9月 大阪証券取引所市場第一部に上場。
- 平成9年8月 東京証券取引所市場第一部に上場。
- 平成10年1月 タイのチョンブリにフェーシング製造合弁会社エクセディフリクションマテリアルを設立（平成14年2月アイシン化工株式会社と合弁、同社が資本参加）。
- 平成11年3月 QS-9000及びISO9001の認証取得。
- 平成11年7月 中国上海市に自動変速装置用部品製造会社上海ダイナックスを設立。
- 平成11年9月 静岡県富士市に静岡営業所を開設。
- 平成12年6月 ISO14001の認証取得。
- 平成13年7月 アイシン精機株式会社と海外事業を中心とした業務提携契約を締結。
- 平成13年12月 中国上海市に自動変速装置用部品製造会社ダイナックス工業（上海）を設立。
- 平成14年7月 アラブ首長国連邦ドバイに販売会社エクセディミドルイーストを設立。
- 平成16年6月 中国上海市にフェーシング製造会社エクセディ（上海）複合摩擦材料を設立（平成18年3月業容拡大に伴い、エクセディ（上海）に社名変更）。
- 平成16年8月 ISO/TS16949の認証取得。
- 平成18年2月 ベトナムのピンフック省に2輪用クラッチ製造合弁会社エクセディベトナムを設立。

- 平成18年5月 中国広州市に販売合弁会社エクセディ（広州）を設立（平成21年5月合弁を解消）。
- 平成18年7月 インドネシアのジャカルタに2輪用クラッチ製造会社エクセディモーターサイクルインドネシアを設立。
- 平成20年3月 京都府福知山市の衣川鑄鉄の株式を取得（平成21年6月エクセディ鑄造に社名変更）。
- 平成20年10月 ニュージーランドのオークランドに販売合弁会社エクセディニュージーランドを設立。

3【事業の内容】

当社グループ（当社及び当社の関係会社）は、当社、30社の子会社、2社の関連会社で構成されており、自動車用の手動変速装置関連事業（MT）及び自動変速装置関連事業（AT）の製造販売を主な事業内容とし、さらに、それらの事業に関連する各種サービス活動を展開しております。

当社グループの事業形態は、国内では、当社及びダイナックスにおいて製品、部品等の製造販売を行っており、それ以外の各社は、製造下請、サービス事業等を分担しております。

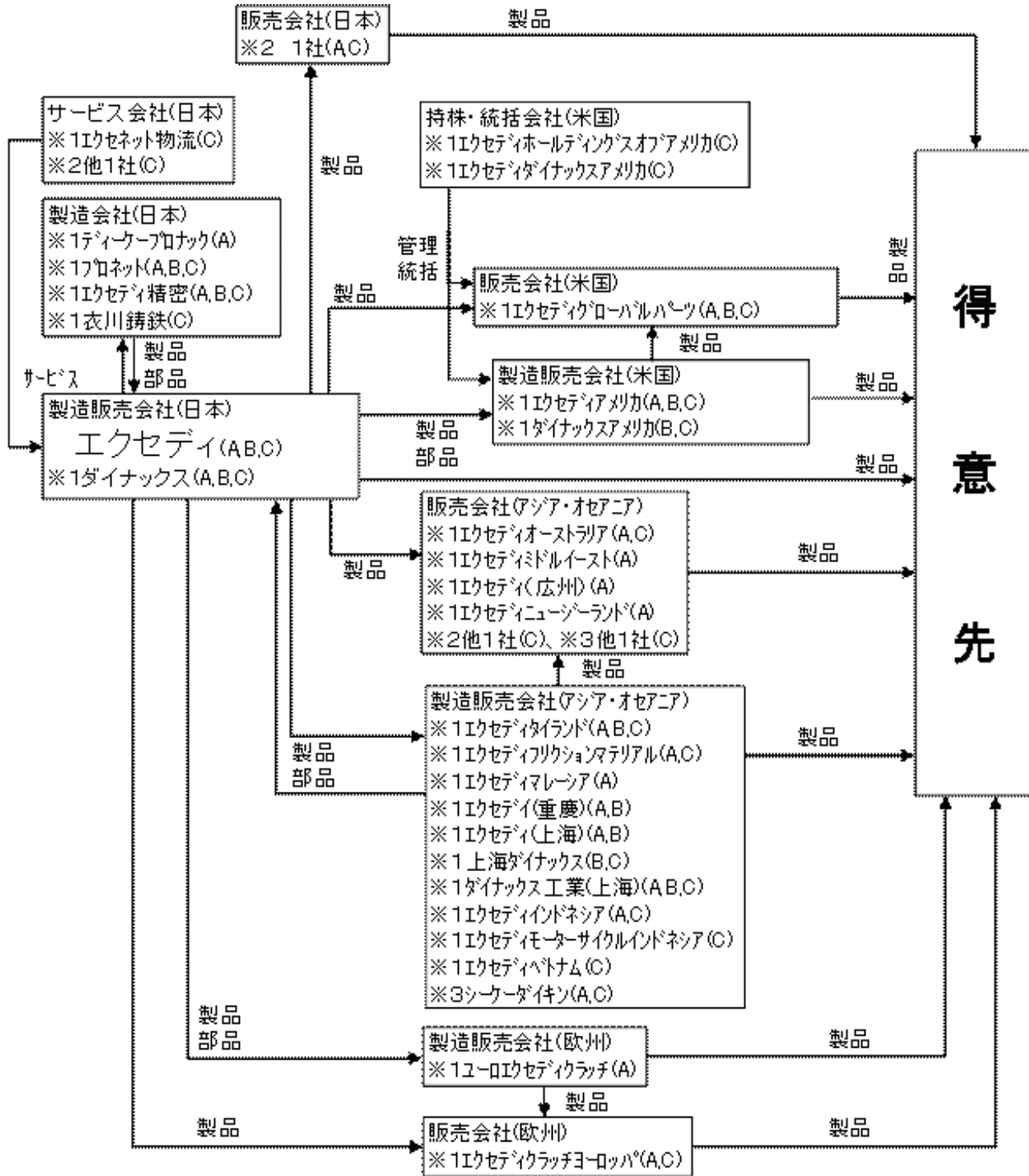
海外では、グループ各社が現地得意先にMT、AT等の製造・販売を行っており、当社及びダイナックスは、得意先へ輸出する他、グループ各社に対して技術援助、製品・部品の供給を行っております。

当社、子会社及び関連会社の事業区分は、概ね次のとおりであり、これらは「第5 経理の状況 1（1）連結財務諸表 注記事項」に掲げる事業の種類別セグメント情報の区分と同一であります。

事業区分	主要製品	主要な会社
MT (手動変速装置関連事業)	クラッチディスク、クラッチカバー、2マスフライホイール	当社、ダイナックス、ディーケープロナック、プロネット、エクセディ精密、エクセディアメリカ、エクセディグローバルパーツ、エクセディオーストラリア、エクセディミドルイースト、エクセディクラッチヨーロッパ、ユーロエクセディクラッチ、エクセディタイランド、エクセディフリクションマテリアル、エクセディマレーシア、エクセディ（重慶）、エクセディ（上海）、エクセディ（広州）、ダイナックス工業（上海）、エクセディインドネシア、シーケーダイキン、エクセディニュージーランド、他1社
AT (自動変速装置関連事業)	トルクコンバータ、オートマチックトランスミッション部品	当社、ダイナックス、プロネット、エクセディ精密、エクセディアメリカ、エクセディグローバルパーツ、ダイナックスアメリカ、エクセディタイランド、エクセディ（重慶）、エクセディ（上海）、上海ダイナックス、ダイナックス工業（上海）
その他	パワーシフトトランスミッション・同部品、トルクコンバータ、ブレーキ、リターダ、機械装置、金型治工具、運送請負、2輪用クラッチ	当社、ダイナックス、エクセネット物流、プロネット、エクセディ精密、エクセディアメリカ、エクセディグローバルパーツ、ダイナックスアメリカ、エクセディダイナックスアメリカ、エクセディオーストラリア、エクセディクラッチヨーロッパ、エクセディタイランド、エクセディフリクションマテリアル、ダイナックス工業（上海）、上海ダイナックス、エクセディインドネシア、エクセディモーターサイクルインドネシア、エクセディベトナム、他7社

（注）ユーロエクセディクラッチは平成21年4月10日にエクセディダイナックスヨーロッパへ社名変更いたしました。

以上の企業集団の状況について事業系統図を示すと次のとおりであります。



(注) ※1：連結子会社

※2：持分法適用非連結子会社

※3：持分法適用関連会社

A：MT（手動変速装置関連事業）

B：AT（自動変速装置関連事業）

C：その他

(注) ユーロエクセディクラッチは平成21年4月10日にエクセディダイナックスヨーロッパへ、衣川鑄鉄は平成21年6月15日にエクセディ鑄造へ社名変更いたしました。

4【関係会社の状況】

(1) 連結子会社

名称 ()内は略称	住所	資本金又は 出資金	主要な事 業の内容	議決権の 所有割合 (%)	関係内容			
					役員の兼任	資金援助	営業上の取引	設備の賃貸借
ダイナックス (D N X) (注) 2、6	北海道千歳市	百万円 500	自動変速装置 関連事業	100.0	当社役員 1名 当社職員 1名	なし	当社が製品・ 部品を販売 同社より製品 ・部品を購入	当社が工場用 地の一部を賃 貸
ディーケープロナッ ク (D P N) (注) 2	広島県東広島市	百万円 400	手動変速装置 関連事業	100.0	当社役員 1名	なし	当社の外注先	同社より建物 の一部を賃借
エクセネット物流 (E N T)	大阪府寝屋川市	百万円 90	運送業	100.0	当社職員 4名	なし	同社へ運送を 委託	当社が駐車場 の一部を賃貸
プロネット (P N T)	京都府木津川市	百万円 415	手動変速装置 関連事業	100.0 [100.0]	当社職員 5名	当社より資 金を貸付	当社の外注先	なし
エクセディ精密 (E P C)	岡山県美作市	百万円 450	同上	100.0 [22.2]	当社役員 1名 当社職員 2名	当社より資 金を貸付	同社より部品 を購入	なし
衣川鑄鉄 (K C I) (注) 5	京都府福知山市	百万円 30	産業機械用伝 導装置関連事 業	80.0	当社役員 1名 当社職員 4名	当社より資 金を貸付	同社より部品 を購入	なし
エクセディホール ディングスオブアメ リカ (E H A) (注) 2	米国ミシガン州 ベルビル	百万米ドル 80	北米事業の統 括管理	100.0	当社職員 2名	なし	なし	なし
エクセディアメリカ (E A C) (注) 2	米国テネシー州 マスコット	百万米ドル 83	自動変速装置 関連事業	60.0 [60.0]	当社役員 2名 当社職員 4名	当社が債務 を保証	当社が製品・ 部品を販売 同社より製品 を購入	なし
エクセディグローバ ルパーツ (E G P)	米国ミシガン州 ベルビル	千米ドル 5,400	手動変速装置 関連事業	100.0 [100.0]	当社職員 3名	当社が債務 を保証	当社が製品を 販売	なし
ダイナックスアメリ カ (D X A) (注) 2	米国バージニア 州 ロアノーク	百万米ドル 51	自動変速装置 関連事業	100.0 [100.0]	当社職員 1名	なし	なし	なし
エクセディダイナッ クスアメリカ (E D A)	米国ミシガン州 ベルビル	千米ドル 250	米国販売統括	100.0 [100.0]	当社職員 2名	なし	なし	なし
エクセディオースト ラリア (E A P)	オーストラリア ビクトリア州 キースプロウ	千豪ドル 1,400	手動変速装置 関連事業	75.0	当社職員 3名	なし	当社が製品を 販売	なし
エクセディミドル イースト (E M E)	アラブ首長国連 邦 ドバイ	千 ディルハム 1,500	同上	73.3 [13.3]	当社職員 4名	なし	当社が製品を 販売	なし
エクセディクラッチ ヨーロッパ (E C E)	英国 チェシャー	千英ポンド 325	同上	100.0	当社職員 2名	なし	当社が製品を 販売	なし
ユーロエクセディク ラッチ (E E C) (注) 5	ハンガリー タタバーニャ	百万 フォリント 561	同上	95.7 [32.8]	当社役員 1名 当社職員 2名	なし	当社が製品・ 部品を販売	なし
エクセディタイラン ド (E X T)	タイ チョンブリ	百万パーツ 100	同上	67.0	当社役員 1名 当社職員 5名	なし	当社が製品・ 部品を販売	なし
エクセディフリク ションマテリアル (E F M) (注) 2	タイ チョンブリ	百万パーツ 316	摩擦材の製造 販売	66.5 [8.2]	当社職員 3名	なし	同社より部品 を購入	なし
エクセディマレーシ ア (E X M) (注) 3	マレーシア ネグリスンピラ ン州	百万 リンギット 13	手動変速装置 関連事業	50.0	当社職員 2名	なし	当社が製品・ 部品を販売 同社より部品 を購入	なし

名称 ()内は略称	住所	資本金又は 出資金	主要な事 業の内容	議決権の 所有割合 (%)	関係内容			
					役員の兼任	資金援助	営業上の取引	設備の賃貸借
エクセディ(重慶) (EXC)(注)2	中国重慶市	百万円 101	手動変速装置 関連事業	70.0	当社役員 2名 当社職員 2名	なし	当社が製品・ 部品を販売	なし
エクセディ(上海) (ESC)(注)2	中国上海市	百万円 2,700	摩擦材の製造 販売、自動変 速装置関連事 業	100.0	当社役員 2名 当社職員 5名	当社が債務 を保証 当社より資 金を貸付	同社より部品 を購入	なし
上海ダイナックス (DXC)	中国上海市	百万米ドル 3	自動変速装置 関連事業	100.0 [100.0]	当社職員 2名	なし	なし	なし
ダイナックス工業 (上海) (DXS)(注)2	中国上海市	百万米ドル 10	同上	100.0 [100.0]	当社職員 2名	なし	なし	なし
エクセディインドネ シア (EXI)	インドネシア ジャカルタ	百万米ドル 2	手動変速装置 関連事業、2 輪用クラッチ 関連事業	100.0	当社役員 1名 当社職員 3名	なし	当社が製品・ 部品を販売	なし
エクセディベトナム (EXV)	ベトナム ビンフック省	百万ドン 56,338	2輪用クラッ チ関連事業	80.0	当社職員 4名	当社より資 金を貸付	なし	なし
エクセディ(広州) (EGC)	中国広州市	百万円 5	手動変速装置 関連事業	80.0 [40.0]	当社職員 3名	なし	当社が製品を 販売	なし
エクセディモーター サイクルインドネシ ア (EMI)(注)2	インドネシア ジャカルタ	百万米ドル 8	2輪用クラッ チ関連事業	100.0 [0.0]	当社職員 6名	なし	なし	なし
エクセディニュー ゼーランド (ENZ)	ニューゼーラン ド オークランド	千NZドル 500	手動変速装置 関連事業	60.0 [5.0]	当社職員 3名	なし	当社が製品を 販売	なし

(2) 持分法適用関連会社

名称 ()内は略称	住所	資本金	主要な事 業の内容	議決権の 所有割合 (%)	関係内容			
					役員の兼任	資金援助	営業上の取引	設備の賃貸借
シーケーダイキン (CDL)	インド ムンバイ	百万ルピー 40	手動変速装置 関連事業	32.1	当社役員 1名 当社職員 1名	なし	当社が製品・ 部品を販売	なし
その他 1社								

(3) その他の関係会社

名称	住所	資本金 (百万円)	主要な事 業の内容	議決権の 被所有割 合(%)	関係内容			
					役員の兼任	資金援助	営業上の取引	設備の賃貸借
アイシン精機㈱ (注)1	愛知県刈谷市	45,049	自動車用部品 及び住生活関 連機器の製造 販売	33.4 [18.5]	当社役員 1名	なし	当社が製品・ 部品を販売	なし

(注) 1. 有価証券報告書を提出しております。

2. 特定子会社に該当しております。

3. 持分は100分の50以下ですが、実質的に支配しているため連結子会社としたものであります。

4. 議決権の所有(被所有)割合の[]内は、間接所有(被所有)割合を内数で示しております。

5. ユーロエクセディクラッチは平成21年4月10日にエクセディダイナックスヨーロッパへ、衣川鑄鉄は平成21年6月15日にエクセディ鑄造へ社名変更いたしました。

6. 売上高(連結会社相互間の内部売上を除く)の連結売上高に占める割合が10%を超えている会社は以下のとおりであります。

主要な損益情報等	売上高 (百万円)	経常利益 (百万円)	当期純利益 (百万円)	純資産額 (百万円)	総資産額 (百万円)
ダイナックス	30,426	2,060	1,304	32,449	37,750

5【従業員の状況】

(1) 連結会社の状況

平成21年3月31日現在

事業の種類別セグメントの名称	従業員数(人)
MT	3,031 (758)
AT	2,896(1,351)
その他	1,432 (435)
全社(共通)	190 (-)
合計	7,549(2,544)

- (注) 1. 従業員数は就業人員(出向者数については、出向先の従業員数に含めております。)であり、臨時雇用者数は()内に年間の平均人員を外数で記載しております。
2. 臨時雇用者数には、季節工、派遣社員を含めております。
3. 全社(共通)として、記載されている従業員数は、特定のセグメントに区分できない研究開発部門等に所属しているものであります。
4. 「その他」の従業員数は前期比 241人増加しており、その主な要因は事業の拡大によるものであります。

(2) 提出会社の状況

平成21年3月31日現在

従業員数(人)	平均年令(才)	平均勤続年数(年)	平均年間給与(円)
2,330(780)	37.1	12.4	5,234,028

- (注) 1. 従業員数は就業人員(出向者数については、出向先の従業員数に含めております。)であり、臨時雇用者数は()内に年間の平均人員を外数で記載しております。
2. 臨時雇用者数には、季節工、派遣社員を含めております。
3. 平均年間給与は、賞与及び基準外賃金を含めております。

(3) 労働組合の状況

(イ) 当社グループの労働組合は、従業員を一体として組織する組合であり、全日産・一般業種労働組合連合会を上部団体とし労使間の相互信頼を基調としております。

(ロ) 平成21年3月31日現在における組合員数は 2,248名であります。

第2【事業の状況】

1【業績等の概要】

(1)業績

サブプライムローン問題に端を発した世界的な景気の悪化により、自動車生産台数は大幅に減少しており、当社グループを取り巻く経営環境は厳しさを増しております。このような環境の下、当社グループは、受注減少に対応する操業体制の整備やコストダウンに注力してまいりました。

この結果、当連結会計年度の業績は、売上高 1,667億円（前年同期比 11.0%減）、営業利益 102億円（同 48.3%減）、経常利益 88億円（同 55.0%減）、当期純利益 54億円（同 53.3%減）となりました。

（セグメント情報）

事業の種類別セグメントの概況は次のとおりです。

[MT（手動変速装置関連事業）]

国内自動車メーカーからの受注が減少したことにより、売上高は 542億円（前年同期比 5.9%減）となりました。営業利益は、売上高の減少及び素材価格の上昇に伴う材料費の増加により、72億円（同 23.0%減）となりました。

[AT（自動変速装置関連事業）]

自動車メーカー及びトランスミッションメーカーからの急激な受注減少により、売上高は 920億円（同 15.4%減）となりました。営業利益は、売上高の減少及び減価償却費等の固定費負担の増加により 31億円（同 67.7%減）となりました。

[その他]

アジアにおける2輪用クラッチの販売拡大はあるものの、国内建設機械用製品の受注減少により、売上高は 204億円（同 1.8%減）となりました。営業利益は、建設機械用製品の売上高減少及び素材価格の上昇に伴う材料費の増加により 6億円（同 47.9%減）となりました。

所在地別セグメントの概況は次のとおりです。

[日本]

国内自動車メーカー及びトランスミッションメーカーからのMT・AT製品の受注落ち込みにより、売上高は 1,044億円（前年同期比 15.7%減）となりました。営業利益は、材料費及び新規ライン立上げ費用の増加等により 45億円（同 66.3%減）となりました。

[米国]

米国自動車販売の減少を受け、売上高は 307億円（同 10.2%減）となりました。営業利益は、前期の新製品立上げ費用は減少したものの売上高が減少したことにより 7億円（同 38.8%減）となりました。

[アジア・オセアニア]

アジア各国の自動車生産の順調な推移、2輪用クラッチ販売の拡大に伴い、売上高は 288億円（同 10.1%増）となりました。営業利益は、インドネシアにおける2輪用クラッチ事業の立上げ費用の増加等により 43億円（同 5.9%減）となりました。

[その他]

売上高は 26億円（同 8.8%減）、営業利益は 4億円（同 2.4%増）となりました。

(2)キャッシュ・フロー

営業活動によるキャッシュ・フローは、景気の低迷による売上高の減少により、税金等調整前当期純利益が前期比 117億円減少し 84億円、減価償却費が前期比 14億円増加し 123億円となりました。この結果、営業活動によって得た資金は、17億円減少し、200億円となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、AT事業を主とした設備投資による支出が 214億円（前期は 136億円）あり、この結果、投資活動で使用した資金は、69億円増加し 210億円となりました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、配当金の支払いが 28億円（前期は 17億円）がありました。この結果、財務活動で使用した資金は、前期比 23億円増加し 32億円となりました。

以上の結果により、現金及び現金同等物の当期末残高は、前期末と比較して 60億円減少し 163億円となりました。

2【生産、受注及び販売の状況】

(1) 生産実績

当連結会計年度の生産実績を事業の種類別セグメントごとに示すと、次のとおりであります。

事業の種類別セグメントの名称	金額（百万円）	前期比（％）
M T	54,080	93.0
A T	91,619	84.0
その他	20,244	97.2
合計	165,944	88.3

(注) 1. 金額は販売価格によっており、セグメント間の取引については相殺消去しております。

2. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

(2) 受注状況

当連結会計年度における受注状況を事業の種類別セグメントごとに示すと、次のとおりであります。

事業の種類別セグメントの名称	受注高 （百万円）	前期比 （％）	受注残高 （百万円）	前期比 （％）
M T	52,915	91.0	4,063	75.2
A T	88,132	80.7	4,621	54.0
その他	19,501	91.8	1,314	58.7
合計	160,549	85.2	10,000	61.7

(注) 1. 金額は販売価格によっており、セグメント間の取引については相殺消去しております。

2. 上記はすべて継続的な受注であるため、受注残高は1ヵ月間相当額を記載しております。

3. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

(3) 販売実績

当連結会計年度の販売実績を事業の種類別セグメントごとに示すと、次のとおりであります。

事業の種類別セグメントの名称	金額（百万円）	前期比（％）
M T	54,256	94.1
A T	92,068	84.6
その他	20,424	98.2
合計	166,749	89.0

(注) 1. セグメント間の取引については相殺消去しております。

2. 最近2連結会計年度の主な相手先別の販売実績及び当該販売実績の総販売実績に対する割合は次のとおりであります。

相手先	前連結会計年度 （平成19年4月1日から 平成20年3月31日まで）		当連結会計年度 （平成20年4月1日から 平成21年3月31日まで）	
	金額（百万円）	割合（％）	金額（百万円）	割合（％）
ジャトコ株式会社	27,731	14.8	21,181	12.7

3. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

3【対処すべき課題】

自動車業界の低迷により受注が伸び悩む中であっても利益を確保できる体質に変革するため、「Focus on Basics〔基本（原点）に戻ろう〕」を掲げ、生産性の改善、品質の向上及びCO₂の削減によるエネルギーコストの削減等、当社グループの全ての事業活動において合理化を強力に推進してまいります。

A T(自動変速装置関連事業)においては、受注状況の変化に対応できる効率的な生産体制を目指すと共に、安全・品質・納期・コストの全てを満足する製品の安定した供給体制を構築してまいります。

M T(手動変速装置関連事業)においては、アジアにおける事業基盤のなご一層の拡充、新製品投入、ブランド戦略の推進により製品の生産から販売までのサプライチェーンをさらに強化してまいります。

その他においては、建設機械やフォークリフト向けの製品については、鑄造・鍛造から大型トランスミッション組立まで一貫した生産機能を強みに安定した事業活動を図ってまいります。また、2輪用クラッチ分野では、アジア諸国の各生産会社の機能強化によりマーケットシェア拡大を目指してまいります。

4【事業等のリスク】

本項に記載した将来に関する事項は、有価証券報告書提出日現在において判断したものであるため、不確実性を内在しており、実際の結果と異なる可能性を含んでおります。

(1) 自動車メーカーの生産動向の影響について

当社グループ（当社及び連結子会社）は、自動車用伝導装置（M T及びA T）の製造販売を主な事業としており、自動車用伝導装置事業の外部顧客への売上高の連結売上高に占める割合は、平成21年3月期 87.8%と高い割合となっております。従って当社グループの業績は、主要な顧客である自動車メーカー全般の生産動向及び販売動向の影響を受ける可能性があります。

また、当社グループは、世界の主要自動車メーカーグループに対して製品を供給しており、特定顧客に対する依存度が集中していることはありませんが、顧客の生産動向及び販売動向に大きな変動が生じた場合、その影響を受けて業績が変動する可能性があります。

(2) 海外展開について

当社グループは、自動車メーカーの世界最適調達方針に応じ、現地生産への対応を進めております。平成21年3月期における所在地別セグメント情報は次のとおりであります。

	日本	米国	アジア・オセアニア	その他	消去又は全社	連結
売上高（百万円）	121,492	31,071	33,897	2,657	22,369	166,749
（構成比(%)）	(72.9)	(18.6)	(20.3)	(1.6)	(13.4)	(100.0)
営業利益（百万円）	4,597	707	4,394	436	81	10,217
（構成比(%)）	(45.0)	(6.9)	(43.0)	(4.3)	(0.8)	(100.0)

当社グループの海外展開において、米国及びアジア・オセアニアでの販売拡大は最重要戦略であります。特にアジア・オセアニアは、自動車生産台数が大きく伸びる可能性のある有望なマーケットであり、今後、積極的に事業展開を行う方針ではありますが、それらの地域の政治動向及び金融情勢の変化に伴うマーケットの変動が、当社グループの業績に影響を与える可能性があります。

(3) 為替リスクについて

当社グループの連結売上高に占める海外売上高の割合は、平成19年3月期 38.4%、平成20年3月期 40.4%、平成21年3月期 43.0%と高い割合になっております。

また、海外連結子会社の個別財務諸表の各数値についても、連結財務諸表作成時の為替レート次第で円換算後の数値が左右されます。

このため、当社グループの業績及び財政状態は、為替変動による影響を受け変動する可能性を含んでおります。

(4) 原材料・部品の調達リスクについて

当社グループの製品は、原材料の大部分と一部の部品をグループ外部より調達しております。調達先と安定的な取引が行えるよう努めておりますが、価格高騰や需給逼迫、調達先の不慮の事故等により、原材料・部品不足が生じ、結果として当社グループの業績に悪影響を与えるリスクが存在します。

5【経営上の重要な契約等】

(1) 業務提携契約

国名	契約者	契約先	契約内容	契約日
日本	エクセディ	アイシン精機株式会社	海外事業を中心とした業務提携	平成13年7月3日

(2) 当社グループ（当社及び連結子会社）が導入する技術援助契約

国名	契約者	契約先	契約内容	契約期間	ロイヤリティ算出方法
ドイツ	エクセディ	J・M・フォイト社	湿式タイプ2分割フライホイールの製造技術	平成4年1月1日より15～20年間	一時金
ドイツ	〃	ルークラメンウントカップリングスパウベタイリグンKG	湿式タイプ2分割フライホイールの特許実施権	平成7年1月17日より特許有効期限まで	売上高の一定割合
日本	〃	ヴァレオユニシアトランスミッション株式会社	フレキシブルフライホイールの特許実施権	平成12年1月31日より特許有効期限まで	〃

(3) 当社グループ（当社及び連結子会社）が与える技術援助契約

国名	契約者	契約先	契約内容	契約期間	ロイヤリティ算出方法
インド	エクセディ	シーケーダイキン	クラッチ製造に関する技術援助契約、技術指導	平成16年10月7日より10年間	売上高の一定割合
アメリカ	〃	エクセディアメリカ	トルクコンバータ、クラッチ製造に関する技術援助契約、技術指導	平成16年12月1日より10年間	〃
アメリカ	〃	ダイナックスアメリカ	オートマチックトランスミッション用部品製造に関する技術援助契約、技術指導	平成9年1月1日より許諾製品の製造販売が終了するまで	〃
オーストラリア	〃	エクセディオーストラリア	クラッチ製造に関する技術援助契約、技術指導	平成19年12月1日より5年間	製造したライセンス製品1個に付き一定の金額
ハンガリー	〃	ユーロエクセディクラッチ（注）	〃	平成12年10月1日より当該会社の存続期間まで	売上高の一定割合
タイ	〃	エクセディタイランド	〃	平成17年3月27日より5年間	〃
タイ	〃	エクセディフリクションマテリアル	クラッチ用摩擦材の製造に関する技術援助契約、技術指導	平成20年1月14日より5年間	〃
マレーシア	〃	エクセディマレーシア	クラッチ製造に関する技術援助契約、技術指導	平成18年6月27日より当該会社の存続期間まで	〃
中国	〃	エクセディ（重慶）	〃	平成7年12月9日より平成37年6月17日まで	〃
中国	〃	エクセディ（上海）	クラッチ用摩擦材、トルクコンバータ製造に関する技術援助契約、技術指導	平成18年5月1日より10年間	〃
インドネシア	〃	エクセディインドネシア	クラッチ製造に関する技術援助契約、技術指導	平成17年10月19日より5年間	〃
ベトナム	〃	エクセディベトナム	2輪用クラッチ製造に関する技術援助契約、技術指導	平成19年6月1日より3年間	〃
インドネシア	〃	エクセディモーターサイクルインドネシア	〃	平成20年5月1日より3年間	〃
台湾	〃	台湾厚木工業有限公司	クラッチ製造に関する技術援助契約、技術指導	平成21年6月9日より5年間	〃

国名	契約者	契約先	契約内容	契約期間	ロイヤリティ算出方法
コロンビア	エクセディ	ボーナム社	クラッチ製造に関する技術援助契約、技術指導	平成17年7月1日より5年間	売上高の一定割合
台湾	"	至舜企業股?有限公司	2輪用クラッチ部品製造に関する技術援助契約、技術指導	平成20年4月2日より5年間	"
アメリカ	ダイナックス	ダイナックスアメリカ	自動変速装置用部品の製造に関する技術援助契約、技術指導	平成21年4月1日より平成22年3月31日まで	"
中国	"	上海ダイナックス	"	平成11年10月1日より平成21年9月30日まで	"
中国	"	ダイナックス工業(上海)	"	平成14年9月1日より許諾製品の製造販売が終了するまで	"
ベトナム	エクセディフリクションマテリアル	エクセディベトナム	2輪用クラッチの製造に関する技術援助契約、技術指導	平成18年12月1日より平成25年11月30日まで	"
インドネシア	"	エクセディインドネシア	"	平成17年11月1日より平成27年10月31日まで	"
タイ	"	エクセディタイランド	"	平成18年1月1日より平成27年12月31日まで	"
中国	エクセディタイランド	エクセディ(重慶)	自動変速装置用部品の製造に関する技術援助契約、技術指導	平成15年8月5日より10年間	"
インド	"	シーケーダイキン	2輪用クラッチの製造に関する技術援助契約、技術指導	平成19年9月28日より10年間	"

(注) ユーロエクセディクラッチは平成21年4月10日にエクセディダイナックスヨーロッパへ社名変更いたしました。

(4) 合併事業契約

国名	契約者	契約先	合併会社名称	出資比率(%)	契約日
ドイツ	エクセディ	フォイトターボ社	ニッポンリターダシステム	50	昭和63年12月20日
タイ	"	サイアムオートパーツ社	エクセディタイランド	67	平成6年9月15日
オーストラリア	"	クラッチコインボーツPTY.リミテッド	エクセディオーストラリア	75	平成7年5月24日
中国	"	重慶機電股?有限公司 他1社	エクセディ(重慶)	70	平成19年7月31日
マレーシア	"	プロトン社 他1社	エクセディマレーシア	50	平成7年7月18日
インド	"	シーケーグループ	シーケーダイキン	32	平成11年6月7日
アメリカ	"	アイシンホールディングスオブアメリカ	エクセディアメリカ	60	平成13年10月31日
タイ	"	アイシン化工株式会社	エクセディフリクションマテリアル	66	平成14年2月11日
アラブ首長国連邦	"	ハブコグループフリーゾーンカンパニー	エクセディミドルイースト	73	平成14年4月7日
ベトナム	"	ベトナムプレジジョンインダストリーNo1カンパニーリミテッド	エクセディベトナム	80	平成18年1月26日
ニュージーランド	"	クラッチコインボーツPTY.リミテッド	エクセディニュージーランド	60	平成20年9月9日

(注) 出資比率は、当社グループから合併会社への出資比率であります。

6【研究開発活動】

自動車メーカーの駆動系開発における重点テーマは、燃料消費率の向上とコスト低減による競争力の強化が主流であります。当社グループ（当社及び連結子会社）は、そのようなニーズに基づいた、顧客によるこんでいただける商品開発のため研究開発活動を強化し、グローバル化が急速に進む自動車・部品産業の中で、駆動及び伝導装置の専門メーカーとして、国際競争力のある製品開発に取り組んでおります。

現在の当社グループの研究開発活動は、MT事業、AT事業を中心に推進しております。研究開発スタッフはグループ全体で341名にのぼり、これは総従業員数の約5%に当たっております。

当連結会計年度における各事業部門別の研究開発活動の状況は次のとおりであります。なお、研究開発費については、各事業部門に配賦できない新製品開発費1,016百万円が含まれており、当連結会計年度の研究開発費の総額は4,946百万円となっております。

[MT]

マニュアルクラッチ関係では、環境問題・低燃費に対応した希薄燃焼型エンジンや直噴ディーゼルエンジンから生じる振動を効率的に吸収する高性能ダンパーや2マスフライホイールなどを開発しております。

近年、商用車ではドライバーに代わって発進・変速操作を自動制御することによって運転を楽にする駆動系の開発が進められており、当社はそれらの駆動系の変化に対応してクラッチ操作の自動制御のためのコンピュータユニットや、その指令に従って正確にクラッチをコントロールするアクチュエータユニット、クラッチシステムなどの製品開発も進めています。

なお、当セグメントに要した研究開発費は1,153百万円であります。

[AT]

自動変速装置部品であるトルクコンバータに関して、内部の油の流れを解明し、性能改善につなげる研究を最新のコンピュータシステムを駆使して実施しております。具体的には、近年の自動車のコンパクト化に対応して、小さなスペースに収めやすい形状でありながら伝達効率の高いトルクコンバータの開発を継続的に進めており、これらの研究成果に基づく新製品により新たな受注を獲得しております。

さらに、急速に普及しはじめたハイブリッド車用に、エンジン/モータ切替時に発生する振動を吸収するダンパー装置、エンジンへの過大負荷入力を防止するトルクリミッターなどの新しい製品分野の開発も行っております。

また、関係会社のダイナックスでは、ロックアップクラッチ用摩擦材をはじめ、自動変速機の部品を開発しており、不織布を用いた湿式摩擦材など世界に例のない独特の技術を培っております。

なお、当セグメントに要した研究開発費は2,036百万円であります。

[その他]

近年、東南アジアを中心に2輪市場が急激な拡大を見せております。当社は、4輪自動車で培ってきた技術を活かして、高品質で安価な2輪用クラッチを開発しております。

さらに、建設・産業機械用製品に関しては、フォークリフトやラフテレーンクレーン車などの運転性・作業性向上及び伝達効率の追求を目的とした、トランスミッションの自動化や性能向上開発を継続的に行っております。

なお、当セグメントに要した研究開発費は739百万円であります。

7【財政状態及び経営成績の分析】

当連結会計年度の財政状態及び経営成績の分析は、以下のとおりであります。

なお、本項に記載した将来に関する事項は、有価証券報告書提出日現在において判断したものであるため、不確実性を内在しており、実際の結果と大きく異なる可能性を含んでおります。

(1) 重要な会計方針及び見積り

当社グループ（当社及び連結子会社）の連結財務諸表は、わが国において一般に公正妥当と認められている会計基準に基づき作成しております。その作成に当たり、経営者は会計方針の選択・適用、資産・負債及び収益・費用の各数値を算出するための見積りを行っております。これらの見積りについては過去の実績等を勘案し合理的に判断しているものの、実際の結果は見積り特有の不確実性により、これらの見積りと異なる場合があります。

当社グループの連結財務諸表で採用する重要な会計方針は、第5「経理の状況」の連結財務諸表の「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」に記載しておりますが、特に以下の重要な会計方針が連結財務諸表作成における重要な見積りの判断に影響を及ぼすと考えております。

貸倒引当金

当社グループは売上債権等の貸倒損失に備えるため、回収不能となる見積額を貸倒引当金として計上しております。将来、得意先等の財務状況の悪化による支払能力の低下或いは倒産等が生じた場合には、引当金の追加計上または貸倒損失が発生する可能性があります。

製品保証引当金

当社グループは製品の品質に係るクレーム処理の費用に備えるため、過去のクレーム発生率に基づき発生すると予想される見込額を計上しております。これらの見積りについては、本質的に不確実性を有しているため実際に発生するクレーム費とは異なることがあり、将来の業績に影響を与える可能性があります。

退職給付引当金

退職給付費用及び債務は、数理計算上使用される前提条件に基づいて算出されております。これらの前提条件には、割引率や年金資産の期待運用収益率等の多くの見積りが存在しております。実際の結果が前提条件と異なる場合や前提条件の変更、法改正等により数理差異金額に大きな変動が生じた場合は、将来の業績に影響を与える可能性があります。

繰延税金資産

当社グループは繰延税金資産の回収可能性評価のため、将来の課税所得を合理的に見積もっておりますが、業績の悪化等により、この見積りが減少した場合は繰延税金資産が減少し税金費用が計上される可能性があります。

(2) 当連結会計年度の財政状態の分析

当社グループの当連結会計年度末における資産総額は、1,369億円（前期末 1,581億円）となり、前期末比 212億円（13.4%）減少しました。内訳としては、現金及び預金、売上債権等の流動資産の減少 221億円、A T 事業への設備投資等による有形固定資産の増加 19億円、投資有価証券等の投資その他の資産の減少 6億円であります。

当連結会計年度末における負債総額は 336億円（前期末 481億円）となり、前期末比 144億円（30.0%）減少しました。内訳としては、仕入債務、未払法人税等及び未払費用等の流動負債の減少 130億円であります。

当連結会計年度末における純資産総額は 1,032億円（前期末 1,100億円）となり、前期末比 67億円（6.2%）減少しました。内訳としては、為替換算調整勘定の減少であります。

(3) 当連結会計年度の経営成績の分析

当社グループの当連結会計年度の経営成績は、売上高 1,667億円（前期比 11.0%減）、営業利益 102億円（同 48.3%減）、経常利益 88億円（同 55.0%減）、当期純利益 54億円（同 53.3%減）となりました。

M T（手動変速装置関連事業）における売上高は 542億円（前期比 5.9%減）、営業利益は 72億円（利益率 13.3%）となりました。売上高は、国内自動車メーカーからの受注が減少したことにより減少いたしました。営業利益は、売上高の減少及び素材価格の上昇に伴う材料費の増加により減少しております。

A T（自動変速装置関連事業）における売上高は 920億円（前期比 15.4%減）、営業利益は 31億円（利益率 3.4%）であります。売上高は、自動車メーカー及びトランスミッションメーカーからの急激な受注減少により減少しております。営業利益は、売上高の減少及び減価償却費等固定費負担の増加により大きく減少しております。

その他における売上高は 204億円（前期比 1.8%減）、営業利益は 6億円（利益率 2.7%）であります。売上高は、アジアにおける 2 輪用クラッチの販売拡大はあるものの、国内建設機械用製品の受注減少により減少しております。営業利益は、建設機械用製品の売上高減少及び素材価格の上昇に伴う材料費の増加により減少しております。

(4) 経営成績に重要な影響を与える要因について

第 2 [事業の状況] 4 [事業等のリスク] に記載のとおり、当社グループの連結売上高の約 9 割が自動車用部品であり、主要な販売先である自動車メーカーの生産・販売動向及び調達方針の影響を受ける可能性があります。特にアジア・オセアニアでの販売拡大は最重要戦略であります。それらの地域の政治動向及び金融情勢の変化に伴うマーケットの変動に多大な影響を受けるものと予想されます。また、海外売上高の増加に伴う為替リスクの増加、原材料・部品の調達リスクについても業績に重要な影響を与えるものと予想されます。

(5) 資本の財源及び資金の流動性についての分析

キャッシュ・フローの状況

当社グループの当連結会計年度における資金状況は、営業活動によるキャッシュ・フローでは 200億円（前期比 8.0%減）の資金を得ております。主な内訳は、税金等調整前当期純利益 84億円（前期比 58.1%減）、減価償却費 123億円（前期比 13.3%増）、売上債権の減少 114億円（前期は 24億円の増加）、法人税等の支払額 72億円（前期比 23.6%増）であります。

投資活動によるキャッシュ・フローでは 210億円（前期比 49.3%増）の資金を使用しております。主な内訳は、有形固定資産の取得による支出 214億円（前期比 57.3%増）であります。

財務活動によるキャッシュ・フローでは 32億円（前期比 254.1%増）の資金を使用しております。主な内訳は、当社株主への配当による支出 28億円（前期比 59.1%増）であります。

以上の結果、現金及び現金同等物の期末残高は 163億円（前期比 27.1%減）となっております。

財務政策

当社グループの運転資金及び設備投資資金は、主として自己資金により充たし、必要に応じて借入による資金調達を実施することを基本方針としています。

当連結会計年度における設備投資等の資金については、主として自己資金により充たしました。

今後の資金需要の主なものは、環境性能の高い新製品の開発投資やさらなるグローバル化に対応するための海外投資等です。これらの資金需要に対しては自己資金で充たする予定ではありますが、資金の不足時に備え、直接金融においては格付機関による企業格付の向上を図ること、また、間接金融では金融機関との関係を強化することにより有利な調達条件の維持に努め、負債と資本のバランスに配慮しつつ、適切で柔軟な資金調達体制を構築してまいります。

従い、当社グループは、その健全な財務状態、営業活動によるキャッシュ・フローを生み出す能力、当社グループの成長を維持するために将来必要な運転資金及び設備投資資金を調達することが可能と考えております。

第3【設備の状況】

1【設備投資等の概要】

当社グループ(当社及び連結子会社)では、当連結会計年度 18,586百万円(建設仮勘定を除く)の設備投資を実施いたしました。

M T事業での投資は 4,557百万円であり、主なものは、当社及びアジア子会社での合理化及び増産対応等による投資であります。A T事業での投資は 11,155百万円であり、主なものは、当社及び国内子会社での増産対応等による投資であります。その他事業での投資は 2,873百万円であり、主なものは、アジア子会社での2輪用クラッチ増産対応等による投資であります。

2【主要な設備の状況】

当社グループ(当社及び連結子会社)の平成21年3月31日現在における主要な設備は、次のとおりであります。

(1) 提出会社

事業所名 (所在地)	事業の種類別 セグメントの 名称	設備の内容	帳簿価額(百万円)					従業員数 (人)
			建物及び 構築物	機械装置 及び運搬具	土地 (面積千㎡)	その他	合計	
本社工場 (大阪府寝屋川市)	全種類	統括業務施設及び 生産設備	2,960	1,956	3,086 (86) [4]	580	8,583	1,216 (227)
上野事業所 (三重県伊賀市)	A T	自動変速装置用 部品生産設備	3,442	9,268	1,443 (152)	932	15,086	977 (489)
川越工場 (埼玉県川越市)	M T	手動変速装置用 部品生産設備	187	166	396 (14)	11	761	102 (59)

(2) 国内子会社

会社名	事業所名 (所在地)	事業の種類別 セグメントの 名称	設備の内容	帳簿価額(百万円)					従業員数 (人)
				建物及び 構築物	機械装置 及び運搬具	土地 (面積千㎡)	その他	合計	
ダイナックス	本社・苫小牧工場 (北海道千歳市・苫小 牧市)	全種類	生産設備	5,581	4,236	1,414 (143)	825	12,058	821 (303)
ディーケープロ ナック	本社工場 (広島県東広島市)	M T	手動変速装 置用部品生 産設備	259	305	356 (18)	11	933	84 (48)

(3) 在外子会社

会社名	事業所名 (所在地)	事業の種類別 セグメント の名称	設備の内容	帳簿価額(百万円)					従業員数 (人)
				建物及び 構築物	機械装置 及び運搬具	土地 (面積千㎡)	その他	合計	
エクセディアメ リカ	本社工場 (米国テネシー州)	M T A T	手動・自動 変速装置用 部品生産設 備	2,224	5,265	151 (474)	509	8,150	573 (120)
ダイナックスア メリカ	本社工場 (米国バージニア州)	A T	自動変速装 置用部品生 産設備	1,045	1,146	158 (94)	37	2,387	334 (-)
エクセディタイ ランド	本社工場 (タイ チョンブリ)	M T	手動変速装 置用部品生 産設備	510	582	294 (43)	262	1,650	577 (234)
エクセディフリ クシヨンマテリ アル	本社工場 (タイ チョンブリ)	M T	手動変速装 置用部品生 産設備	300	975	136 (24)	379	1,792	577 (153)
エクセディ(上 海)	本社工場 (中国上海市)	M T A T	手動・自動 変速装置用 部品生産設 備	828	1,058	- (-)	103	1,990	408 (144)
ダイナックス工 業(上海)	本社工場 (中国上海市)	A T	自動変速装 置用部品生 産設備	331	1,668	- (-)	118	2,118	198 (428)

(注) 1. 上記の帳簿価額には、建設仮勘定及び消費税等を含んでおりません。

2. 提出会社の本社工場中には、ディーケービルサービス(持分法適用非連結子会社)に貸与中の土地 11百万円

- (1,287㎡)を含んでおります。上記の他、同社より建物 914百万円を賃借しております。
 3. 土地の一部を賃借しております。賃借している土地の面積については、[] で外書きしております。
 4. 臨時雇用者数は、従業員数の()内に年間の平均人員を外数で記載しております。

3【設備の新設、除却等の計画】

当社グループ(当社及び連結子会社)は、多種多様な事業を国内外で行っており、期末時点においてその設備の新設・拡充の計画を個々のプロジェクトごとに決定しておりません。そのため、事業の種類別セグメントごとの数値を開示する方法によっております。

なお、当連結会計年度後1年間の設備投資計画(新設・拡充)は12,000百万円であり、事業の種類別セグメントごとの内訳は次のとおりであります。

事業の種類別 セグメントの名称	平成21年3月末 計画金額 (百万円)	既支払額 (百万円)	設備等の主な内容・目的	資金調達方法
M T	2,000	1,499	手動変速装置用部品生産設備	主に自己資金
A T	8,300	5,420	自動変速装置用部品生産設備	主に自己資金
その他	1,700	576	運搬車両用、建設機械用、産業機械用駆動及び伝導装置生産設備、金型・治工具生産設備、2輪用クラッチ生産設備等	主に自己資金
合計	12,000	7,497		

(注) 1. 金額には消費税等を含んでおります。

2. 経常的な設備の更新による売廃却を除き、重要な設備の売廃却の計画はありません。

3. 各セグメントの計画概要は、次のとおりであります。

M T事業は、国内 1,300百万円、アジア他 700百万円であります。

A T事業は、国内 2,600百万円、米国 1,000百万円、アジア他 4,700百万円であります。

その他事業は、国内 1,000百万円、アジア他 700百万円であります。

第4【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	168,000,000
計	168,000,000

【発行済株式】

種類	事業年度末現在発行数(株) (平成21年3月31日)	提出日現在発行数(株) (平成21年6月25日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通 株式	48,593,736	同左	東京証券取引所 大阪証券取引所 (各市場第一部)	単元株式数 100株
計	48,593,736	同左	-	-

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数(株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増 減額(千円)	資本準備金残 高(千円)
平成15年4月1日～ 平成16年3月31日 (注)1	6,400	48,520,136	4,000	7,226,541	4,000	6,485,699
平成16年4月1日～ 平成17年3月31日 (注)1	73,600	48,593,736	46,000	7,272,541	46,002	6,531,701
平成17年3月12日 (注)2	1,100,000	49,693,736	927,300	8,199,841	925,155	7,456,856
平成17年3月28日 (注)3	100,000	49,793,736	84,300	8,284,141	84,105	7,540,961
平成19年1月22日 (注)4	1,200,000	48,593,736	-	8,284,141	-	7,540,961

(注)1. 新株引受権の権利行使による増加であります。

2. 一般募集増資による増加であります。

発行株数 1,100千株、発行価額 1,684.05円、資本組入額 843円

3. 第三者割当増資による増加であります。

発行株数 100千株、発行価額 1,684.05円、資本組入額 843円

割当先 野村證券株

4. 自己株式の消却による減少であります。

(5)【所有者別状況】

平成21年3月31日現在

区分	株式の状況(1単元の株式数100株)								単元未満株式の状況(株)
	政府及び地方公共団体	金融機関	金融商品取引業者	その他の法人	外国法人等		個人その他	計	
					個人以外	個人			
株主数(人)	-	41	24	247	173	6	6,465	6,956	-
所有株式数(単元)	-	125,001	2,476	119,246	187,922	617	50,421	485,683	25,436
所有株式数の割合(%)	-	25.74	0.51	24.55	38.69	0.13	10.38	100.00	-

(注)1.「その他の法人」の欄には、証券保管振替機構名義の株式が6単元含まれております。

2.自己株式は、「個人その他」の欄に116単元、「単元未満株式の状況」の欄に50株含まれております。

(6)【大株主の状況】

平成21年3月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数(千株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
アイシン精機株式会社	愛知県刈谷市朝日町2丁目1	7,230	14.87
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社	東京都中央区晴海1丁目8-11	5,860	12.06
アイシンホールディングスオブアメリカ (常任代理人株式会社三井住友銀行証券ファイナンス営業部)	1665 East Fourth Street Seymour, IN 47274 U.S.A. (東京都千代田区丸の内1丁目3番2号)	4,500	9.26
アイシンヨーロッパSA (常任代理人株式会社三井住友銀行証券ファイナンス営業部)	Avenue de L'Industrie 21, Parc Industriel, 1420 Braine-L'Alleud, BELGIUM (東京都千代田区丸の内1丁目3番2号)	4,500	9.26
日本マスタートラスト信託銀行株式会社	東京都港区浜松町2丁目11-3	3,709	7.63
資産管理サービス信託銀行株式会社	東京都中央区晴海1丁目8-12晴海アイランドトリトンスクエアオフィスタワーZ	1,699	3.49
日野自動車株式会社	東京都日野市日野台3丁目1-1	1,271	2.61
ダイハツ工業株式会社	大阪府池田市ダイハツ町1-1	1,241	2.55
ステートストリートバンクアンドトラストカンパニー (常任代理人株式会社みずほコーポレート銀行兜町証券決済業務室)	P.O.BOX 351 Boston, Massachusetts 02101 U.S.A. (東京都中央区日本橋兜町6番7号)	859	1.76
芭蕉会	大阪府寝屋川市木田元宮1丁目1-1	832	1.71
計	-	31,705	65.24

(注)上記の所有株式数のうち、信託業務に係る株式数は次のとおりであります。

日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 5,860千株
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 3,709千株
資産管理サービス信託銀行株式会社 1,699千株

(7)【議決権の状況】

【発行済株式】

平成21年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 11,600	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 48,556,700	485,567	-
単元未満株式	普通株式 25,436	-	1単元(100株)未満の株式
発行済株式総数	48,593,736	-	-
総株主の議決権	-	485,567	-

(注)「完全議決権株式(その他)」の欄には、証券保管振替機構名義の株式が600株、議決権の数が6個含まれております。

【自己株式等】

平成21年3月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義所有 株式数(株)	他人名義所有 株式数(株)	所有株式数の 合計(株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合(%)
株式会社エクセディ	大阪府寝屋川市木田 元宮1丁目1番1号	11,600	-	11,600	0.02
計	-	11,600	-	11,600	0.02

(8)【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

2【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 会社法第155条第7号に該当する普通株式の取得

(1)【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(2)【取締役会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(3)【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

区分	株式数(株)	価額の総額(円)
当事業年度における取得自己株式	1,347	1,935,534
当期間における取得自己株式	254	437,114

(注) 当期間における取得自己株式には、平成21年6月1日からこの有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式は含まれておりません。

(4)【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数(株)	処分価額の総額(円)	株式数(株)	処分価額の総額(円)
引き受ける者の募集を行った取得自己株式	-	-	-	-
消却の処分を行った取得自己株式	-	-	-	-
合併、株式交換、会社分割に係る移転を行った取得自己株式	-	-	-	-
その他	-	-	-	-
保有自己株式数	11,650	-	11,904	-

(注) 当期間における保有自己株式には、平成21年6月1日からこの有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式は含まれておりません。

3【配当政策】

当社は、配当の決定にあたって、株主に対して適正な利益還元を行うと同時に、社業の持続的発展を図るために不可欠な内部留保を確保することを基本方針としております。

当社は、中間配当と期末配当の年2回、剰余金の配当を行う制度をとっております。

これらの剰余金の配当の決定機関は、期末配当については株主総会、中間配当については取締役会であります。

当事業年度の配当につきましては、上記方針に基づき当期は1株当たり35円の配当（うち中間配当25円）を実施することを決定しました。この結果、当事業年度の配当性向は48.2%となりました。

内部留保金は、財務体質の強化、自動車環境対策に伴う燃費向上技術、振動・騒音対策技術の開発のための研究開発投資、海外拠点の充実等の資金需要に充当させていただきます。

当社は、取締役会の決議により、毎年9月30日を基準日として、中間配当を行うことができる旨を定款に定めております。

なお、当事業年度に係る剰余金の配当は以下のとおりであります。

決議年月日	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配当額 (円)
平成20年10月30日 取締役会決議	1,214	25.0
平成21年6月24日 定時株主総会決議	485	10.0

4【株価の推移】

(1)【最近5年間の事業年度別最高・最低株価】

回次	第55期	第56期	第57期	第58期	第59期
決算年月	平成17年3月	平成18年3月	平成19年3月	平成20年3月	平成21年3月
最高(円)	2,090	4,330	4,040	3,920	3,240
最低(円)	1,448	1,660	3,120	2,395	822

(注) 最高・最低株価は、東京証券取引所市場第一部におけるものであります。

(2)【最近6月間の月別最高・最低株価】

月別	平成20年10月	11月	12月	平成21年1月	2月	3月
最高(円)	2,015	1,619	1,250	1,139	1,436	1,400
最低(円)	1,015	1,161	822	868	930	1,091

(注) 最高・最低株価は、東京証券取引所市場第一部におけるものであります。

5【役員の状況】

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
代表取締役 社長		清水 春生	昭和22年1月7日生	昭和45年2月 当社入社 平成5年7月 営業本部副本部長 平成6年6月 取締役 平成8年6月 営業本部長 平成11年6月 常務取締役 平成14年6月 専務取締役 平成18年6月 代表取締役社長(現任)	(注)3	11
代表取締役	品質保証本部・原 価低減本部・全社 安全環境担当	寺田 悦次	昭和20年7月26日生	昭和43年4月 当社入社 平成10年4月 A T事業部長 平成10年6月 取締役 平成11年4月 上野事業所副所長 平成14年6月 常務取締役、上野事業所長 平成14年11月 生産技術本部長 平成17年6月 専務取締役 平成17年7月 M T事業部・T S事業部・生産技術 本部担当 平成18年6月 品質保証本部・調達本部・A T事業 部・全社安全環境担当 平成18年11月 M & T事業部担当 平成20年10月 代表取締役(現任) 平成21年4月 品質保証本部(現任)・原価低減本 部(現任)・全社安全環境担当(現 任)、生産技術開発本部担当	(注)3	8
取締役	管理本部長、総務 本部・リスクマネ ジメント担当、関 係会社管理担当	政岡 久泰	昭和24年8月8日生	平成12年10月 当社入社、財務室長 平成13年6月 取締役 平成14年6月 管理本部長(現任)、情報システム 室長、E R P・情報管理担当 平成16年6月 常務取締役、総務本部担当(現任) 平成17年1月 危機管理担当 平成19年6月 リスクマネジメント担当(現任) 平成21年6月 取締役(現任)	(注)3	7
取締役	技術開発本部長、 調達本部担当	松田 雅之	昭和26年6月27日生	昭和49年4月 当社入社 平成10年11月 営業本部副本部長 平成14年6月 取締役 平成16年6月 営業本部長 平成17年6月 常務取締役 平成17年7月 調達本部長 平成17年10月 エクセディ(上海)董事長(現任) 平成18年6月 技術開発本部担当 平成18年9月 エクセディ(重慶)董事長(現任) 平成21年4月 技術開発本部長(現任)、調達本部 担当(現任)、営業本部担当 平成21年6月 取締役(現任)	(注)3	6
取締役	生産技術開発本部 長	坂本 義継	昭和23年10月9日生	昭和48年4月 当社入社 平成10年4月 A T事業部副事業部長 平成14年6月 取締役、上野事業所副所長 平成18年6月 常務取締役 平成19年2月 生産技術本部長 平成21年4月 生産技術開発本部長(現任) 平成21年6月 取締役(現任)	(注)3	6
取締役	上野事業所長、 M & T事業部・A T事業部担当	神藤 克己	昭和27年4月4日生	昭和53年4月 当社入社 平成14年4月 T S事業部長 平成14年6月 取締役 平成17年1月 M T事業部長 平成18年6月 常務取締役 平成19年2月 A T事業部長、上野安全環境担当 平成19年6月 上野事業所長(現任) 平成21年4月 M & T事業部担当(現任) 平成21年6月 取締役(現任)、A T事業部担当 (現任)	(注)3	6

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
取締役	営業本部長、海外 ビジネス担当	久川 秀仁	昭和30年1月24日生	昭和53年4月 当社入社 平成17年7月 海外営業室長 平成18年4月 営業本部副本部長 平成18年6月 取締役(現任)、海外ビジネス担当 (現任) 平成19年4月 海外業務室長 平成21年4月 営業本部長(現任)	(注)3	1
取締役		夏目 美喜雄	昭和16年1月20日生	昭和38年4月 新川工業(株)(現アイシン精機(株))入 社 平成3年6月 アイシン精機(株)取締役 平成7年6月 同社常務取締役 平成9年6月 同社専務取締役 平成13年6月 同社代表取締役副社長 平成14年6月 当社取締役(現任) 平成17年6月 アイシン精機(株)代表取締役副会長 平成19年6月 同社相談役(現任)	(注)3	4
常勤監査役		澤田 直章	昭和22年7月30日生	昭和45年4月 当社入社 平成3月11月 東京営業所長 平成11年11月 営業本部副本部長 平成14年7月 調達本部長 平成17年6月 常勤監査役(現任)	(注)4	3
監査役		豊田 幹司郎	昭和16年8月14日生	昭和40年4月 新川工業(株)(現アイシン精機(株))入 社 昭和54年6月 アイシン精機(株)取締役 昭和58年6月 同社常務取締役 昭和60年6月 同社専務取締役 昭和63年6月 同社代表取締役副社長 平成7年6月 同社代表取締役社長 平成11年6月 アイシン・エーアイ(株)代表取締役会 長 平成14年6月 当社監査役(現任) 平成17年6月 アイシン精機(株)代表取締役会長(現 任)	(注)5	10
監査役		岡田 孝次	昭和14年2月12日生	昭和46年12月 会計士補 昭和51年3月 公認会計士岡田孝次事務所開業(現 任) 昭和57年6月 当社会計監査人 平成16年6月 当社監査役(現任)	(注)4	1
監査役		山崎 武徳	昭和15年4月18日生	昭和42年4月 司法修習生 昭和44年4月 弁護士登録、第一法律事務所所属 (現任) 平成18年6月 当社監査役(現任)	(注)4	0
計						68

- (注)1. 取締役夏目美喜雄は、会社法第2条第15号に定める社外取締役であります。
2. 監査役豊田幹司郎、監査役岡田孝次及び監査役山崎武徳は、会社法第2条第16号に定める社外監査役であります。
3. 平成21年6月24日開催の定時株主総会の終結の時から1年間
4. 平成19年6月26日開催の定時株主総会の終結の時から4年間
5. 平成21年6月24日開催の定時株主総会の終結の時から4年間
6. 当社は、平成21年6月24日より取締役の員数を削減すると同時に、経営環境の変化に迅速に対応した業務執行を行うことを目的とした執行役員制度を導入いたしました。執行役員は17名で、専務執行役員 寺田悦次、常務執行役員 政岡久泰、松田雅之、坂本義継、神藤克己、久川秀仁(上記記載の取締役)の6名の他に、上級執行役員 三浦秀喜、岡村尚吾、秋田幸治、山崎博武、山本俊治、平井 彰、執行役員 片山元雄、馬場理仁、中原 正、山口 貢、吉永徹也の11名で構成されています。

6【コーポレート・ガバナンスの状況等】

(1)【コーポレート・ガバナンスの状況】

コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方

当社は、コンプライアンス経営の徹底とコーポレート・ガバナンス体制の構築が経営の基盤であると認識しております。

具体的には、取締役会と監査役・監査役会による取締役の職務執行の監督・監査を行う体制を整え、経営環境の変化に迅速に対応できる組織作りや内部牽制機能の充実により、経営の透明性を向上し、コンプライアンス経営及びガバナンス体制の強化に努めてまいります。

会社の機関の内容及び内部統制システムの整備の状況等

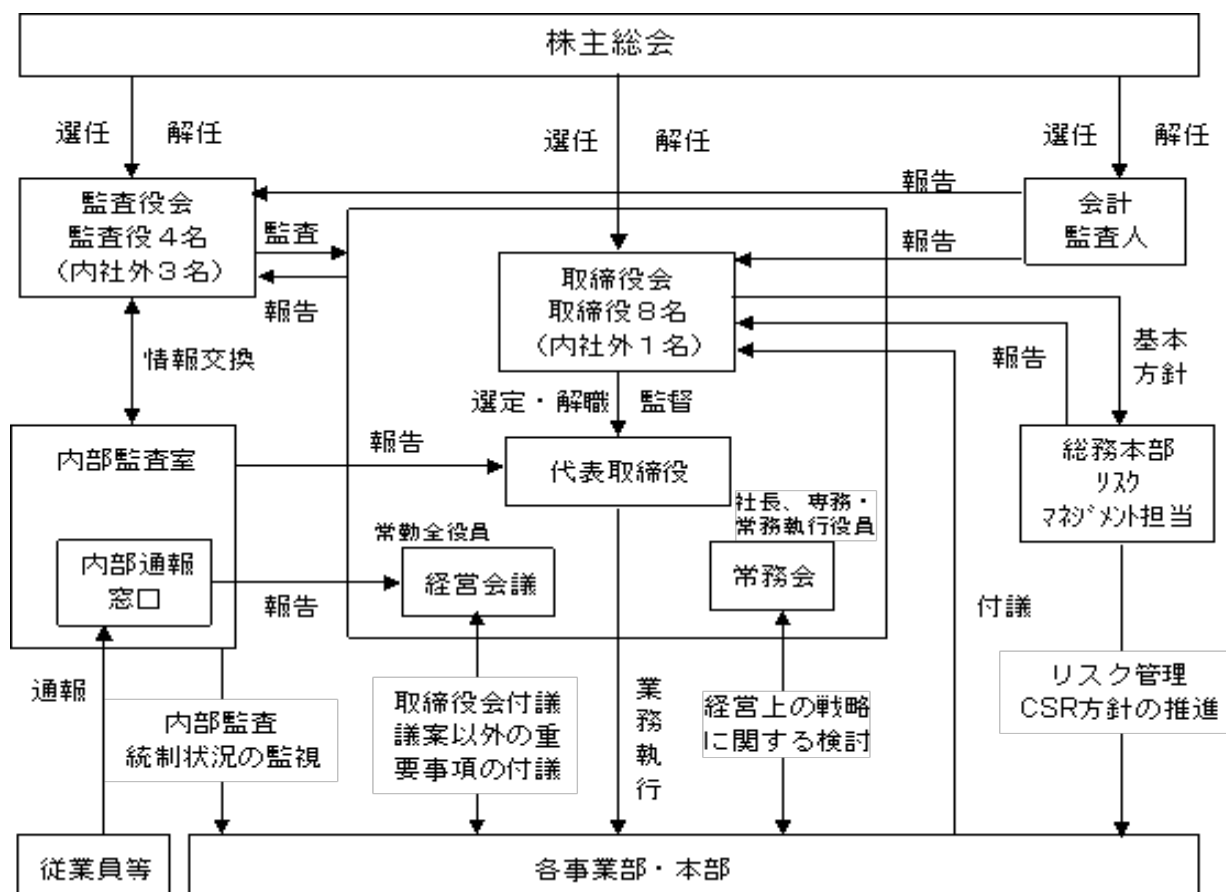
(イ) 会社の機関の基本説明

取締役会は、1名の社外取締役を含む8名の取締役で構成され、月1回の定例取締役会と必要に応じて開催する臨時取締役会において議論を尽くして経営の意思決定を行っております。

社外監査役3名を含む監査役4名は、取締役会に出席し、経営の意思決定について監査上の意見を述べるとともに、取締役の職務執行状況を監査しております。

また、経営上の戦略については、取締役社長、専務執行役員及び常務執行役員の計7名で構成される常務会において検討を行っている他、業務執行に関する具体的な詳細は、原則として月2回開催される執行役員を含む常勤全役員で構成される経営会議において活発に意見交換し、十分に審議検討を行っております。

(ロ) コーポレート・ガバナンス体制の模式図



(ハ) 会社の機関の内容及び内部統制システムの整備の状況

当社の内部統制システムは、総務本部、リスクマネジメント担当において統括し、社長直轄の独立した業務監査部門である内部監査室が、各部門の業務監査やコンプライアンスのチェックを行っております。

(二) 内部監査及び監査役監査の状況

内部監査室は、4名で構成され、事業年度ごとに監査のテーマを定め、監査計画を立案して各部門の業務監査を行う他、必要に応じて臨時の監査を行い、内部統制の確保のため、監査の充実に努めております。

常勤監査役は、事業年度ごとの会計監査の計画、会計監査の結果について会計監査人から定期的に報告を受ける他、監査上の留意点につき、適宜協議を行い監査を行っております。また、常勤監査役と内部監査室は、監査計画の立案、監査の経過及び結果について、適宜、情報交換を行っております。

(ホ) 会計監査の状況

当社の会計監査業務を執行した公認会計士は、牧美喜男氏、宮林利朗氏及び今井康好氏であり、あずさ監査法人に所属し、定期的な監査のほか、会計上の課題についてのアドバイス等も受けております。

当社の会計監査業務に係る補助者は、公認会計士4名、その他13名であります。

(ヘ) 社外取締役及び社外監査役との関係

社外取締役及び社外監査役は、当社との間に記載すべき人的関係及び利害関係はございません。

また、社外監査役豊田幹司郎はアイシン精機株式会社代表取締役会長であり、同社は当社株式の14.87%を保有する主要株主であります。

なお、当社及び当社グループ会社は同社と営業取引関係があります。

リスク管理体制の整備の状況

当社は、総合的なリスク管理の統括部門として総務本部、リスクマネジメント担当を設置し、損失を未然に防ぐ活動を展開しております。

役員報酬の内容

区分	人数	報酬等の額
取締役	15名	258百万円
監査役	4名	38百万円
合計	19名	297百万円

(注) 1. 報酬等の額には、使用人兼務取締役の使用人分給与及び賞与は含まれておりません。

2. 平成18年6月27日開催の第56回定時株主総会決議による報酬限度額

取締役 年額 300百万円

監査役 年額 60百万円

3. 報酬等の額には、当事業年度中に費用処理した役員賞与及び役員退職慰労引当金を含んでおります。

責任限定契約の内容の概要

当社と社外取締役及び社外監査役は、会社法第427条第1項の規定に基づき、同法第423条第1項の損害賠償責任を限定する契約を締結しております。当該契約に基づく損害賠償責任の限度額は、会社法第425条が規定する最低責任限度額としております。

取締役の定数

当社の取締役は12名以内とする旨定款に定めております。

取締役の選任の決議要件

当社は、取締役の選任決議について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨定款に定めております。また、取締役の選任決議は、累積投票によらないものとする旨定款に定めております。

株主総会決議事項を取締役会で決議することができる事項

(イ) 自己の株式の取得

当社は、会社法第165条第2項の定めにより、取締役会の決議によって、市場取引等により自己の株式を取得することができる旨定款に定めております。これは、経営環境の変化に対応した機動的な資本政策を遂行することを目的とするものであります。

(ロ) 中間配当

当社は、会社法第454条第5項の定めにより、取締役会の決議によって毎年9月30日を基準日として、中間配当を実施することができる旨定款に定めております。これは、株主への機動的な利益還元を行うことを目的とするものであります。

株主総会の特別決議要件

当社は、会社法第309条第2項に定める株主総会の特別決議要件について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨定款に定めております。これは、株主総会における特別決議の定足数を緩和することにより、株主総会の円滑な運営を行うことを目的とするものであります。

(2) 【監査報酬の内容等】

【監査公認会計士等に対する報酬の内容】

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に基づく報酬(百万円)	非監査業務に基づく報酬(百万円)	監査証明業務に基づく報酬(百万円)	非監査業務に基づく報酬(百万円)
提出会社	-	-	49	-
連結子会社	-	-	15	-
計	-	-	64	-

【その他重要な報酬の内容】

当社の連結子会社であるエクセディアメリカ等は、当社の監査公認会計士等と同一のネットワークに属しているKPMGに対して、監査証明業務及び税務関連業務に関する報酬を支払っております。

【監査公認会計士等の提出会社に対する非監査業務の内容】

該当事項はありません。

【監査報酬の決定方針】

該当事項はありませんが、当社の監査公認会計士等に対する監査報酬は、法の定める監査項目の多様性及び監査に必要な作業時間等を総合的に勘案し、当社と監査公認会計士等が協議して決定しております。

第5【経理の状況】

1．連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

(1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和51年大蔵省令第28号。以下「連結財務諸表規則」という。）に基づいて作成しております。

なお、前連結会計年度（平成19年4月1日から平成20年3月31日まで）は、改正前の連結財務諸表規則に基づき、当連結会計年度（平成20年4月1日から平成21年3月31日まで）は、改正後の連結財務諸表規則に基づいて作成しております。

(2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号。以下「財務諸表等規則」という。）に基づいて作成しております。

なお、前事業年度（平成19年4月1日から平成20年3月31日まで）は、改正前の財務諸表等規則に基づき、当事業年度（平成20年4月1日から平成21年3月31日まで）は、改正後の財務諸表等規則に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、前連結会計年度（平成19年4月1日から平成20年3月31日まで）及び当連結会計年度（平成20年4月1日から平成21年3月31日まで）の連結財務諸表並びに前事業年度（平成19年4月1日から平成20年3月31日まで）及び当事業年度（平成20年4月1日から平成21年3月31日まで）の財務諸表について、あずさ監査法人により監査を受けております。

1【連結財務諸表等】
(1)【連結財務諸表】
【連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成20年3月31日)	当連結会計年度 (平成21年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	23,149	16,403
受取手形及び売掛金	² 37,840	23,830
たな卸資産	15,937	-
商品及び製品	-	5,686
仕掛品	-	2,665
原材料及び貯蔵品	-	5,312
繰延税金資産	2,722	2,016
短期貸付金	696	644
未収還付法人税等	-	1,756
その他	1,857	1,658
貸倒引当金	204	103
流動資産合計	81,999	59,871
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	^{1 2} 18,009	^{1 2} 20,059
機械装置及び運搬具（純額）	^{1 2} 30,476	¹ 29,176
工具、器具及び備品（純額）	¹ 5,231	¹ 3,938
土地	² 7,697	² 8,009
建設仮勘定	6,805	8,956
有形固定資産合計	68,220	70,139
無形固定資産		
投資その他の資産	1,337	936
投資有価証券	³ 2,228	³ 1,491
長期貸付金	151	139
繰延税金資産	3,105	2,744
その他	1,187	1,657
貸倒引当金	83	73
投資その他の資産合計	6,589	5,959
固定資産合計	76,147	77,036
資産合計	158,147	136,907

	前連結会計年度 (平成20年3月31日)	当連結会計年度 (平成21年3月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	15,412	9,932
短期借入金	2 5,712	2 4,482
未払費用	5,787	4,492
未払法人税等	3,878	463
製品保証引当金	638	673
その他	5,777	4,070
流動負債合計	37,206	24,114
固定負債		
長期借入金	2,965	2 2,627
繰延税金負債	1,520	560
退職給付引当金	5,718	5,561
役員退職慰労引当金	457	549
その他	244	245
固定負債合計	10,907	9,543
負債合計	48,114	33,658
純資産の部		
株主資本		
資本金	8,284	8,284
資本剰余金	7,540	7,540
利益剰余金	84,933	87,587
自己株式	35	37
株主資本合計	100,723	103,374
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	435	127
為替換算調整勘定	994	6,368
評価・換算差額等合計	1,430	6,240
少数株主持分	7,879	6,114
純資産合計	110,032	103,248
負債純資産合計	158,147	136,907

【連結損益計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成19年4月1日から 平成20年3月31日まで)	当連結会計年度 (平成20年4月1日から 平成21年3月31日まで)
売上高	187,302	166,749
売上原価	¹ 144,215	¹ 134,731
売上総利益	43,086	32,017
販売費及び一般管理費		
荷造運搬費	5,360	4,404
製品保証引当金繰入額	542	307
貸倒引当金繰入額	57	12
販売雑費	1,247	-
役員報酬及び給料手当	5,380	5,365
福利厚生費	1,030	1,023
退職給付費用	116	211
役員退職慰労引当金繰入額	205	91
旅費及び通信費	581	-
情報処理費	575	-
減価償却費	748	703
研究開発費	² 4,545	² 4,946
その他	2,913	4,734
販売費及び一般管理費合計	23,305	21,800
営業利益	19,781	10,217
営業外収益		
受取利息	186	174
受取配当金	24	25
受取賃貸料	145	149
持分法による投資利益	107	-
助成金収入	72	104
試験受託収益	71	61
その他	344	543
営業外収益合計	951	1,058
営業外費用		
支払利息	274	294
固定資産除売却損	311	718
為替差損	240	972
持分法による投資損失	-	0
その他	328	484
営業外費用合計	1,154	2,471
経常利益	19,578	8,804

	前連結会計年度 (平成19年4月1日から 平成20年3月31日まで)	当連結会計年度 (平成20年4月1日から 平成21年3月31日まで)
特別利益		
貸倒引当金戻入額	215	-
製品保証引当金戻入額	560	-
特別利益合計	775	-
特別損失		
投資有価証券評価損	-	173
減損損失	97	136
特別損失合計	97	310
税金等調整前当期純利益	20,256	8,494
法人税、住民税及び事業税	6,741	2,445
法人税等調整額	785	37
法人税等合計	7,527	2,482
少数株主利益	1,071	570
当期純利益	11,658	5,441

【連結株主資本等変動計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成19年4月1日から 平成20年3月31日まで)	当連結会計年度 (平成20年4月1日から 平成21年3月31日まで)
株主資本		
資本金		
前期末残高	8,284	8,284
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	8,284	8,284
資本剰余金		
前期末残高	7,540	7,540
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	7,540	7,540
利益剰余金		
前期末残高	75,048	84,933
在外子会社の会計処理の変更に伴う増減	-	30
当期変動額		
剰余金の配当	1,773	2,817
当期純利益	11,658	5,441
当期変動額合計	9,884	2,623
当期末残高	84,933	87,587
自己株式		
前期末残高	26	35
当期変動額		
自己株式の取得	9	1
当期変動額合計	9	1
当期末残高	35	37
株主資本合計		
前期末残高	90,847	100,723
在外子会社の会計処理の変更に伴う増減	-	30
当期変動額		
剰余金の配当	1,773	2,817
当期純利益	11,658	5,441
自己株式の取得	9	1
当期変動額合計	9,875	2,621
当期末残高	100,723	103,374

	前連結会計年度 (平成19年4月1日から 平成20年3月31日まで)	当連結会計年度 (平成20年4月1日から 平成21年3月31日まで)
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金		
前期末残高	697	435
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	261	308
当期変動額合計	261	308
当期末残高	435	127
為替換算調整勘定		
前期末残高	1,152	994
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	158	7,362
当期変動額合計	158	7,362
当期末残高	994	6,368
評価・換算差額等合計		
前期末残高	1,850	1,430
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	419	7,671
当期変動額合計	419	7,671
当期末残高	1,430	6,240
少数株主持分		
前期末残高	7,148	7,879
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	730	1,764
当期変動額合計	730	1,764
当期末残高	7,879	6,114
純資産合計		
前期末残高	99,846	110,032
在外子会社の会計処理の変更に伴う増減	-	30
当期変動額		
剰余金の配当	1,773	2,817
当期純利益	11,658	5,441
自己株式の取得	9	1
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	311	9,435
当期変動額合計	10,186	6,814
当期末残高	110,032	103,248

【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成19年4月1日から 平成20年3月31日まで)	当連結会計年度 (平成20年4月1日から 平成21年3月31日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益	20,256	8,494
減価償却費	10,862	12,312
固定資産除売却損益（は益）	287	680
減損損失	97	136
貸倒引当金の増減額（は減少）	154	79
退職給付引当金の増減額（は減少）	626	157
受取利息及び受取配当金	210	199
支払利息	274	294
売上債権の増減額（は増加）	2,456	11,491
たな卸資産の増減額（は増加）	1,405	245
仕入債務の増減額（は減少）	549	3,696
長期未払金の増減額（は減少）	663	20
その他	880	1,665
小計	27,691	27,345
利息及び配当金の受取額	230	246
利息の支払額	263	310
法人税等の支払額	5,833	7,211
営業活動によるキャッシュ・フロー	21,825	20,069
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	215	47
定期預金の払戻による収入	213	700
有形固定資産の取得による支出	13,619	21,417
有形固定資産の売却による収入	171	240
無形固定資産の取得による支出	205	518
投資有価証券の取得による支出	285	11
子会社株式の取得による支出	228	-
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	2	-
貸付けによる支出	54	44
貸付金の回収による収入	113	52
その他	2	20
投資活動によるキャッシュ・フロー	14,108	21,068
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額（は減少）	1,025	888
長期借入れによる収入	560	1,926
長期借入金の返済による支出	460	1,045
自己株式の取得による支出	9	1
配当金の支払額	1,770	2,816
少数株主への配当金の支払額	349	484
その他	71	11
財務活動によるキャッシュ・フロー	931	3,299
現金及び現金同等物に係る換算差額	99	1,789
現金及び現金同等物の増減額（は減少）	6,686	6,086
現金及び現金同等物の期首残高	15,735	22,422
現金及び現金同等物の期末残高	22,422	16,335

【連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項】

前連結会計年度 (平成19年4月1日から 平成20年3月31日まで)	当連結会計年度 (平成20年4月1日から 平成21年3月31日まで)
<p>1. 連結の範囲に関する事項</p> <p>連結子会社 下記の合計 26社</p> <p>(1) 国内子会社 6社 ダイナックス、ディーケープロナック、エクセネット物流、プロネット、エクセディ精密、衣川鑄鉄 なお、衣川鑄鉄は、平成20年3月5日に新たに株式を取得したことから、当連結会計年度より連結子会社に含めました。</p> <p>(2) 在外子会社 20社 エクセディホールディングスオプアメリカ、エクセディアメリカ、エクセディグローバルパーツ、ダイナックスアメリカ、エクセディダイナックスアメリカ、エクセディオーストラリア、エクセディミドルイースト、エクセディクラッチヨーロッパ、ユーロエクセディクラッチ、エクセディタイランド、エクセディフリクションマテリアル、エクセディマレーシア、エクセディ(重慶)、エクセディ(上海)、上海ダイナックス、ダイナックス工業(上海)、エクセディインドネシア、エクセディベトナム、エクセディ(広州)、エクセディモーターサイクルインドネシア</p> <p>非連結子会社 下記の合計 4社</p> <p>(1) 国内子会社 3社 ディーケービルサービス、ディービーエスキャリアサービス、ニッポンリターダシステム</p> <p>(2) 在外子会社 1社 C E インベスト</p> <p>(連結の範囲から除いた理由) 非連結子会社は、いずれも小規模であり、合計の総資産、売上高、当期純損益(持分に見合う額)及び利益剰余金(持分に見合う額)等は、いずれも連結財務諸表に重要な影響を及ぼしていないためであります。</p> <p>2. 持分法の適用に関する事項</p> <p>持分法適用会社 6社</p> <p>(1) 非連結子会社 4社 上記1の に掲げる全ての子会社</p> <p>(2) 関連会社 2社 在外会社 2社 シーケーダイキン、ABSストアインベスト 持分法非適用会社 該当ありません。 持分法適用会社のうち、決算日が連結決算日と異なる会社については、各社の事業年度に係る財務諸表を使用しております。</p> <p>3. 連結子会社の事業年度等に関する事項</p> <p>在外連結子会社の決算日は全て12月31日であります。 連結財務諸表の作成に当たっては、同決算日現在の財務諸表を使用しております。ただし、連結決算日までの期間に発生した重要な取引については、連結上必要な調整を行っております。 また、衣川鑄鉄の決算日は7月31日であります。 なお、衣川鑄鉄については、平成20年3月31日で仮決算を実施し、その財務諸表を使用しております。</p>	<p>1. 連結の範囲に関する事項</p> <p>連結子会社 下記の合計 27社</p> <p>(1) 国内子会社 6社 ダイナックス、ディーケープロナック、エクセネット物流、プロネット、エクセディ精密、衣川鑄鉄</p> <p>(2) 在外子会社 21社 エクセディホールディングスオプアメリカ、エクセディアメリカ、エクセディグローバルパーツ、ダイナックスアメリカ、エクセディダイナックスアメリカ、エクセディオーストラリア、エクセディミドルイースト、エクセディクラッチヨーロッパ、ユーロエクセディクラッチ、エクセディタイランド、エクセディフリクションマテリアル、エクセディマレーシア、エクセディ(重慶)、エクセディ(上海)、上海ダイナックス、ダイナックス工業(上海)、エクセディインドネシア、エクセディベトナム、エクセディ(広州)、エクセディモーターサイクルインドネシア、エクセディニュージーランド なお、エクセディニュージーランドは、平成20年10月8日に設立いたしました。</p> <p>非連結子会社 下記の合計 3社</p> <p>(1) 国内子会社 2社 ディーケービルサービス、ニッポンリターダシステム なお、ディービーエスキャリアサービスは平成20年9月1日付でディーケービルサービスと合併し、消滅いたしました。</p> <p>(2) 在外子会社 1社 C E インベスト</p> <p>(連結の範囲から除いた理由) 同左</p> <p>2. 持分法の適用に関する事項</p> <p>持分法適用会社 5社</p> <p>(1) 非連結子会社 3社 上記1の に掲げる全ての子会社 なお、ディービーエスキャリアサービスは平成20年9月1日付でディーケービルサービスとの合併により消滅したため、持分法の適用範囲から除外いたしました。</p> <p>(2) 関連会社 2社 在外会社 2社 シーケーダイキン、ABSストアインベスト 持分法非適用会社 該当ありません。 持分法適用会社のうち、決算日が連結決算日と異なる会社については、各社の事業年度に係る財務諸表を使用しております。</p> <p>3. 連結子会社の事業年度等に関する事項</p> <p>在外連結子会社の決算日は全て12月31日であります。 連結財務諸表の作成に当たっては、同決算日現在の財務諸表を使用しております。ただし、連結決算日までの期間に発生した重要な取引については、連結上必要な調整を行っております。</p>

<p>前連結会計年度 (平成19年4月1日から 平成20年3月31日まで)</p>	<p>当連結会計年度 (平成20年4月1日から 平成21年3月31日まで)</p>
<p>4. 会計処理基準に関する事項</p> <p>重要な資産の評価基準及び評価方法</p> <p>(1) 有価証券 その他有価証券 時価のあるもの … 決算期末日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定） 時価のないもの … 移動平均法による原価法</p> <p>(2) デリバティブ 時価法</p> <p>(3) たな卸資産 製品・原材料・仕掛品は、主として先入先出法による低価法、貯蔵品は、主として最終仕入原価法による原価法</p> <p>重要な減価償却資産の減価償却の方法</p> <p>(1) 有形固定資産 当社及び国内連結子会社は、定率法によっております。ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物（建物付属設備を除く）については、定額法によっております。在外連結子会社は主として定額法によっております。</p> <p>なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。</p> <p>建物及び構築物 3～50年 機械装置及び運搬具 2～15年 工具器具備品 2～20年</p> <p>(会計方針の変更)</p> <p>平成19年度の法人税法の改正に伴い、当連結会計年度より平成19年4月1日以降に取得した有形固定資産について、改正後の法人税法に基づく減価償却の方法に変更しております。</p> <p>この結果、従来の方法によった場合に比べ、営業利益は 375百万円、経常利益及び税金等調整前当期純利益は 375百万円それぞれ減少しております。</p> <p>なお、セグメント情報に与える影響については、当該箇所に記載しております。</p> <p>(追加情報)</p> <p>平成19年度の法人税法の改正に伴い、平成19年3月31日以前に取得した有形固定資産については、改正前の法人税法に基づく減価償却の方法の適用により取得価額の5%に到達した連結会計年度の翌連結会計年度より、取得価額の5%相当額と備忘価額との差額を5年間にわたり均等償却し、減価償却費に含めて計上しております。</p> <p>この結果、従来の方法によった場合に比べ、営業利益は 405百万円、経常利益及び税金等調整前当期純利益は 406百万円それぞれ減少しております。</p> <p>なお、セグメント情報に与える影響については、当該箇所に記載しております。</p>	<p>4. 会計処理基準に関する事項</p> <p>重要な資産の評価基準及び評価方法</p> <p>(1) 有価証券 その他有価証券 時価のあるもの … 同左</p> <p>時価のないもの … 同左</p> <p>(2) デリバティブ … 同左</p> <p>(3) たな卸資産 通常の販売目的で保有する商品・製品・原材料・仕掛品は、主として先入先出法による原価法（貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定）、貯蔵品は、主として最終仕入原価法による原価法 (会計方針の変更) 通常の販売目的で保有するたな卸資産については、従来、主として先入先出法による低価法によっておりましたが、当連結会計年度より、「棚卸資産の評価に関する会計基準」（企業会計基準第9号 平成18年7月5日公表分）が適用されたことに伴い、主として先入先出法による原価法（貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法）により算定しております。</p> <p>これによる当連結会計年度の営業利益、経常利益及び税金等調整前当期純利益に与える影響は軽微であります。</p> <p>重要な減価償却資産の減価償却の方法</p> <p>(1) 有形固定資産（リース資産を除く） … 同左</p> <p>(追加情報)</p> <p>平成20年度の法人税法の改正による法定耐用年数の変更に伴い、機械装置について、当連結会計年度より耐用年数の変更を行っております。</p> <p>この結果、従来の方法によった場合に比べ、営業利益は 416百万円、経常利益及び税金等調整前当期純利益は 415百万円それぞれ減少しております。</p> <p>なお、セグメント情報に与える影響については、当該箇所に記載しております。</p>

<p>前連結会計年度 (平成19年4月1日から 平成20年3月31日まで)</p>	<p>当連結会計年度 (平成20年4月1日から 平成21年3月31日まで)</p>
<p>(2) 無形固定資産 自社利用のソフトウェアは、社内における利用可能期間(3～5年)に基づく定額法によっており、その他の無形固定資産については、定額法によっております。</p> <p>重要な引当金の計上基準</p> <p>(1) 貸倒引当金 売上債権、貸付金等の債権の貸倒損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については、個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。なお、連結会社相互の債権・債務を相殺消去したことに伴う貸倒引当金の調整計算を実施しております。</p> <p>(2) 製品保証引当金 製品の品質に係るクレーム処理の費用に備えるため、過去のクレーム発生率に基づき予想される発生見込額を計上しております。</p> <p>(3) 退職給付引当金 従業員の退職給付に備えるため、当連結会計年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき計上しております。なお、数理計算上の差異は、発生時の翌連結会計年度に全額費用処理しております。過去勤務債務は、発生した連結会計年度に全額費用処理しております。</p> <p>(4) 役員退職慰労引当金 当社及び国内連結子会社は、役員の退職金の支払に備えるため、内規による期末必要額を計上しております。 重要な外貨建の資産又は負債の本邦通貨への換算基準 外貨建取引等会計処理基準を適用しております。 重要なリース取引の処理方法 リース物件の所有権が借主に移転すると認められるもの以外のファイナンス・リース取引については、当社及び国内連結子会社は、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっており、在外連結子会社は、主として売買取引に係る方法に準じた会計処理によっております。 その他連結財務諸表作成のための重要な事項 消費税等の会計処理 消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。</p> <p>5. 連結子会社の資産及び負債の評価に関する事項 全面時価評価法を採用しております。</p> <p>6. のれん及び負ののれんの償却に関する事項 発生額が僅少であるため、発生時に一括償却しております。</p> <p>7. 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲 手許現金、随時引き出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なリスクしか負わない取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期投資からなっております。</p>	<p>(2) 無形固定資産(リース資産を除く) 同左</p> <p>(3) リース資産 リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。 なお所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が平成20年3月31日以前のリース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっております。 重要な引当金の計上基準</p> <p>(1) 貸倒引当金 同左</p> <p>(2) 製品保証引当金 同左</p> <p>(3) 退職給付引当金 同左</p> <p>(4) 役員退職慰労引当金 同左</p> <p>重要な外貨建の資産又は負債の本邦通貨への換算基準 同左</p> <p>その他連結財務諸表作成のための重要な事項 消費税等の会計処理 同左</p> <p>5. 連結子会社の資産及び負債の評価に関する事項 同左</p> <p>6. のれん及び負ののれんの償却に関する事項 同左</p> <p>7. 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲 同左</p>

【連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項の変更】

前連結会計年度 (平成19年4月1日から 平成20年3月31日まで)	当連結会計年度 (平成20年4月1日から 平成21年3月31日まで)
	<p>(連結財務諸表作成における在外子会社の会計処理に関する当面の取扱い)</p> <p>当連結会計年度より、「連結財務諸表作成における在外子会社の会計処理に関する当面の取扱い」(実務対応報告第18号 平成18年5月17日)を適用し、連結決算上必要な修正を行っておりません。</p> <p>これによる当連結会計年度の営業利益、経常利益及び税金等調整前当期純利益に与える影響は軽微であります。</p> <p>(リース取引に関する会計基準)</p> <p>所有権移転外ファイナンス・リース取引については、従来、賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっておりましたが、当連結会計年度より、「リース取引に関する会計基準」(企業会計基準第13号(平成5年6月17日(企業会計審議会第一部会)、平成19年3月30日改正))及び「リース取引に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第16号(平成6年1月18日(日本公認会計士協会 会計制度委員会)、平成19年3月30日改正))を適用し、通常の売買取引に係る方法に準じた会計処理によっております。</p> <p>なお、所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が平成20年3月31日以前のリース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっております。</p> <p>これによる当連結会計年度の営業利益、経常利益及び税金等調整前当期純利益に与える影響は軽微であります。</p>

【表示方法の変更】

前連結会計年度 (平成19年4月1日から 平成20年3月31日まで)	当連結会計年度 (平成20年4月1日から 平成21年3月31日まで)
<p>(連結貸借対照表)</p> <p>固定負債の「長期末払金」(当連結会計年度末 42百万円)は、重要性が無いため、当連結会計年度より固定負債の「その他」に含めることといたしました。</p> <p>(連結キャッシュ・フロー計算書)</p> <p>投資活動によるキャッシュ・フローの「投資有価証券の取得による支出」は、重要性が増したため、当連結会計年度より区分掲記することといたしました。なお、前連結会計年度の「投資有価証券の取得による支出」は、投資活動によるキャッシュ・フローの「その他」に 11百万円含まれております。</p>	<p>(連結貸借対照表)</p> <p>「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則等」の一部を改正する内閣府令(平成20年8月7日 内閣府令第50号)が適用となるに伴い、前連結会計年度において、「たな卸資産」として掲記されていたものは、当連結会計年度より「商品及び製品」「仕掛品」「原材料及び貯蔵品」に区分掲記してあります。</p> <p>なお、前連結会計年度の「たな卸資産」に含まれる「商品及び製品」「仕掛品」「原材料及び貯蔵品」は、それぞれ 6,508百万円、3,256百万円、6,171百万円であります。</p> <p>(連結損益計算書)</p> <p>販売費及び一般管理費の「販売雑費」(当連結会計年度 779百万円)は、重要性が乏しいため、当連結会計年度より販売費及び一般管理費の「その他」に含めることといたしました。</p> <p>販売費及び一般管理費の「旅費及び通信費」(当連結会計年度 570百万円)は、重要性が乏しいため、当連結会計年度より販売費及び一般管理費の「その他」に含めることといたしました。</p> <p>販売費及び一般管理費の「情報処理費」(当連結会計年度 570百万円)は、重要性が乏しいため、当連結会計年度より販売費及び一般管理費の「その他」に含めることといたしました。</p>

【注記事項】

(連結貸借対照表関係)

前連結会計年度 (平成20年3月31日)				当連結会計年度 (平成21年3月31日)			
1 有形固定資産の減価償却累計額		117,287百万円		1 有形固定資産の減価償却累計額		119,343百万円	
2 このうち担保に供している資産及び担保の目的は、次のとおりであります。				2 このうち担保に供している資産及び担保の目的は、次のとおりであります。			
担保資産		担保付債務		担保資産		担保付債務	
科目	金額 (百万円)	科目	金額 (百万円)	科目	金額 (百万円)	科目	金額 (百万円)
受取手形及び売掛金	1,141	短期借入金	1,688	建物及び構築物	37	1年以内返済の長期借入金	15
建物及び構築物	220	1年以内返済の長期借入金	112	土地	61	長期借入金	113
機械装置及び運搬具	4			計	98	計	129
土地	152						
計	1,518	計	1,801				
3 非連結子会社及び関連会社に対するものは次のとおりであります。				3 非連結子会社及び関連会社に対するものは次のとおりであります。			
区分	科目	金額 (百万円)		区分	科目	金額 (百万円)	
株式	投資有価証券	751		株式	投資有価証券	687	
4 受取手形割引高		16百万円		4 受取手形割引高		5百万円	

(連結損益計算書関係)

前連結会計年度 (平成19年4月1日から 平成20年3月31日まで)				当連結会計年度 (平成20年4月1日から 平成21年3月31日まで)			
1 売上原価に含まれるたな卸資産に関する低価法による評価減の金額は 400百万円であります。				1 期末たな卸高は収益性の低下に基づく簿価切下後の金額であり、次のたな卸資産評価損が売上原価に含まれております。		568百万円	
2 研究開発費の総額				2 研究開発費の総額			
一般管理費		4,545百万円		一般管理費		4,946百万円	
3 減損損失				3 減損損失			
当連結会計年度において、以下の資産グループについて減損損失を計上しました。				当連結会計年度において、以下の資産グループについて減損損失を計上しました。			
場所	用途	種類	金額 (百万円)	資産グループ	用途	種類	金額 (百万円)
事業の種類別のグルーピングに属さない兵庫県丹波市青垣町所在の土地	遊休地	土地	69	A T	遊休設備	機械装置	114
事業の種類別のグルーピングに属さない大阪府枚方市穂谷所在の土地	遊休地	土地	27	A T	遊休設備	工具、器具及び備品	22
事業の種類別にM T (手動変速装置関連事業)、A T (自動変速装置関連事業)、産業機械用駆動及び伝導装置関連事業、その他の事業及び事業の種類別のグルーピングに属さない資産にグルーピングしております。				事業の種類別にM T (手動変速装置関連事業)、A T (自動変速装置関連事業)、産業機械用駆動及び伝導装置関連事業、その他の事業及び事業の種類別のグルーピングに属さない資産にグルーピングしております。			
グルーピングの単位である各事業においては、減損の兆候はありませんでしたが、事業の種類別のグルーピングに属さない資産にグルーピングされる上記の土地については、地価が帳簿価額に対して下落しているため、当連結会計年度において、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失(97百万円)として特別損失に計上しております。				グルーピングの単位である各事業においては、減損の兆候はありませんでしたが、A Tのグルーピングに属する生産設備の一部について将来の使用見込みがないため、当連結会計年度において、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失(136百万円)として特別損失に計上しております。			
なお、当資産グループの回収可能価額は正味売却価額により測定しており、土地については固定資産税評価額により評価しております。				なお、当資産グループの回収可能価額は正味売却価額により測定しておりますが、売却や他への転用が困難な資産は、備忘価額まで減額しております。			

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(平成19年4月1日から平成20年3月31日まで)

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	前連結会計年度末 株式数(千株)	当連結会計年度増 加株式数(千株)	当連結会計年度減 少株式数(千株)	当連結会計年度末 株式数(千株)
発行済株式				
普通株式	48,593	-	-	48,593
合計	48,593	-	-	48,593
自己株式				
普通株式(注)	7	2	-	10
合計	7	2	-	10

(注) 自己株式の普通株式の増加2千株は、単元未満株式の買取による増加であります。

2. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成19年6月26日 定時株主総会	普通株式	947	19.5	平成19年3月31日	平成19年6月27日
平成19年10月30日 取締役会	普通株式	825	17.0	平成19年9月30日	平成19年11月28日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	配当の原資	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成20年6月26日 定時株主総会	普通株式	1,603	利益剰余金	33.0	平成20年3月31日	平成20年6月27日

当連結会計年度(平成20年4月1日から平成21年3月31日まで)

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	前連結会計年度末 株式数(千株)	当連結会計年度増 加株式数(千株)	当連結会計年度減 少株式数(千株)	当連結会計年度末 株式数(千株)
発行済株式				
普通株式	48,593	-	-	48,593
合計	48,593	-	-	48,593
自己株式				
普通株式(注)	10	1	-	11
合計	10	1	-	11

(注) 自己株式の普通株式の増加1千株は、単元未満株式の買取による増加であります。

2. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成20年6月26日 定時株主総会	普通株式	1,603	33.0	平成20年3月31日	平成20年6月27日
平成20年10月30日 取締役会	普通株式	1,214	25.0	平成20年9月30日	平成20年11月28日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	配当の原資	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成21年6月24日 定時株主総会	普通株式	485	利益剰余金	10.0	平成21年3月31日	平成21年6月25日

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

前連結会計年度 (平成19年4月1日から 平成20年3月31日まで)	当連結会計年度 (平成20年4月1日から 平成21年3月31日まで)																
<p>1 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係</p> <p style="text-align: right;">(平成20年3月31日現在)</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">現金及び預金勘定</td> <td style="text-align: right;">23,149百万円</td> </tr> <tr> <td>預入期間が3ヶ月を超える定期預金</td> <td style="text-align: right;">727</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">現金及び現金同等物</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">22,422</td> </tr> </table>	現金及び預金勘定	23,149百万円	預入期間が3ヶ月を超える定期預金	727	現金及び現金同等物	22,422	<p>1 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係</p> <p style="text-align: right;">(平成21年3月31日現在)</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">現金及び預金勘定</td> <td style="text-align: right;">16,403百万円</td> </tr> <tr> <td>預入期間が3ヶ月を超える定期預金</td> <td style="text-align: right;">68</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">現金及び現金同等物</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">16,335</td> </tr> </table>	現金及び預金勘定	16,403百万円	預入期間が3ヶ月を超える定期預金	68	現金及び現金同等物	16,335				
現金及び預金勘定	23,149百万円																
預入期間が3ヶ月を超える定期預金	727																
現金及び現金同等物	22,422																
現金及び預金勘定	16,403百万円																
預入期間が3ヶ月を超える定期預金	68																
現金及び現金同等物	16,335																
<p>2 株式の取得により新たに連結子会社となった会社の資産及び負債の主な内訳</p> <p>株式の取得により新たに衣川鋳鉄を連結したことに伴う連結開始時の資産及び負債の内訳並びに同社株式の取得価額と同社取得のための支出(純額)との関係は次のとおりであります。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">流動資産</td> <td style="text-align: right;">216百万円</td> </tr> <tr> <td>固定資産</td> <td style="text-align: right;">209</td> </tr> <tr> <td>のれん</td> <td style="text-align: right;">93</td> </tr> <tr> <td>流動負債</td> <td style="text-align: right;">214</td> </tr> <tr> <td>固定負債</td> <td style="text-align: right;">280</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">株式の取得価額</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">24</td> </tr> <tr> <td>現金及び現金同等物</td> <td style="text-align: right;">22</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">差引：取得のための支出</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">1</td> </tr> </table>	流動資産	216百万円	固定資産	209	のれん	93	流動負債	214	固定負債	280	株式の取得価額	24	現金及び現金同等物	22	差引：取得のための支出	1	
流動資産	216百万円																
固定資産	209																
のれん	93																
流動負債	214																
固定負債	280																
株式の取得価額	24																
現金及び現金同等物	22																
差引：取得のための支出	1																

(リース取引関係)

前連結会計年度(平成19年4月1日から平成20年3月31日まで)

1. リース物件の所有権が借主に移転すると認められるもの以外のファイナンス・リース取引(借主側)

リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額、減損損失累計額相当額及び期末残高相当額

	取得価額 相当額 (百万円)	減価償却累 計額相当額 (百万円)	減損損失累 計額相当額 (百万円)	期末残高 相当額 (百万円)
機械装置及び運搬具	333	215	-	118
工具、器具及び備品	131	29	-	101
合計	464	245	-	219

なお、取得価額相当額は、未経過リース料期末残高が有形固定資産の期末残高等に占める割合が低いため、支払利子込み法により算定しております。

未経過リース料期末残高相当額等

未経過リース料期末残高相当額	
1年内	63百万円
1年超	156百万円
計	219百万円
リース資産減損勘定の残高	-百万円

なお、未経過リース料期末残高相当額は、未経過リース料期末残高が有形固定資産の期末残高等に占める割合が低い
ため、支払利子込み法により算定しております。

支払リース料、リース資産減損勘定の取崩額、減価償却費相当額及び減損損失

支払リース料	79百万円
リース資産減損勘定の取崩額	-百万円
減価償却費相当額	79百万円
減損損失	-百万円

減価償却費相当額の算定方法

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。

2. オペレーティング・リース取引(借主側)

未経過リース料

1年内	3百万円
1年超	9百万円
計	12百万円

当連結会計年度(平成20年4月1日から平成21年3月31日まで)

1. ファイナンス・リース取引(借主側)

所有権移転外ファイナンス・リース取引

リース資産の内容

有形固定資産

主として車両(機械装置及び運搬具)及び事務用機器(工具、器具及び備品)であります。

リース資産の減価償却の方法

連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項「4. 会計処理基準に関する事項 重要な減価償却資産の減価償却の方法」に記載のとおりであります。

なお、所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が、平成20年3月31日以前のリース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっており、その内容は次のとおりであります。

(1) リース物件の所有権が借主に移転すると認められるもの以外のファイナンス・リース取引(借主側)

リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額、減損損失累計額相当額及び期末残高相当額

	取得価額 相当額 (百万円)	減価償却累 計額相当額 (百万円)	減損損失累 計額相当額 (百万円)	期末残高 相当額 (百万円)
機械装置及び運搬具	266	197	-	68
工具、器具及び備品	142	56	-	86

	取得価額 相当額 (百万円)	減価償却累 計額相当額 (百万円)	減損損失累 計額相当額 (百万円)	期末残高 相当額 (百万円)
合計	408	253	-	155

なお、取得価額相当額は、未経過リース料期末残高が有形固定資産の期末残高等に占める割合が低いいため、支払利子込み法により算定しております。

未経過リース料期末残高相当額等

未経過リース料期末残高相当額	
1年内	45百万円
1年超	109百万円
計	155百万円
リース資産減損勘定の残高	-百万円

なお、未経過リース料期末残高相当額は、未経過リース料期末残高が有形固定資産の期末残高等に占める割合が低いいため、支払利子込み法により算定しております。

支払リース料、リース資産減損勘定の取崩額、減価償却費相当額及び減損損失

支払リース料	61百万円
リース資産減損勘定の取崩額	-百万円
減価償却費相当額	61百万円
減損損失	-百万円

減価償却費相当額の算定方法

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。

2. オペレーティング・リース取引（借主側）

オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料

1年内	2百万円
1年超	6百万円
計	9百万円

(有価証券関係)

1. その他有価証券で時価のあるもの

	種 類	前連結会計年度(平成20年3月31日)			当連結会計年度(平成21年3月31日)		
		取得原価 (百万円)	連結貸借対 照表計上額 (百万円)	差額 (百万円)	取得原価 (百万円)	連結貸借対 照表計上額 (百万円)	差額 (百万円)
連結貸借対照 表計上額が取 得原価を超え るもの	(1) 株式	356	1,183	827	248	541	293
	(2) 債券	-	-	-	-	-	-
	(3) その他	-	-	-	-	-	-
	小計	356	1,183	827	248	541	293
連結貸借対照 表計上額が取 得原価を超え ないもの	(1) 株式	326	226	99	271	194	76
	(2) 債券	-	-	-	-	-	-
	(3) その他	-	-	-	-	-	-
	小計	326	226	99	271	194	76
合計		682	1,410	727	520	736	216

2. 時価評価されていない主な有価証券の内容及び連結貸借対照表計上額

	前連結会計年度 (平成20年3月31日)	当連結会計年度 (平成21年3月31日)
	連結貸借対照表計上額(百万円)	連結貸借対照表計上額(百万円)
その他有価証券 非上場株式	66	67

(注) 当連結会計年度において、有価証券について 173百万円(その他有価証券で時価のある株式 173百万円)減損処理を行っております。
なお、減損処理にあたっては、期末における時価が取得原価に比べ 50%以上下落した場合には全て減損処理を行い、30~50%程度下落した場合には、回収可能性等を考慮して必要と認められた額について減損処理を行っております。

(デリバティブ取引関係)

1. 取引の状況に関する事項

前連結会計年度 (平成19年4月1日から 平成20年3月31日まで)	当連結会計年度 (平成20年4月1日から 平成21年3月31日まで)
(1) 取引の内容 当社グループ(当社及び連結子会社)で利用しているデリバティブ取引は、為替予約取引及び通貨スワップ取引であります。	(1) 取引の内容 同左
(2) 取引に対する取組方針 デリバティブ取引は、将来の為替の変動によるリスク回避を目的としており、投機的な取引は行わない方針であります。	(2) 取引に対する取組方針 同左
(3) 取引の利用目的 デリバティブ取引は、外貨建金銭債権の為替変動リスクを回避し、回収時のキャッシュ・フローの安定化を図る目的で利用しております。なお、ヘッジ会計の適用要件を満たしていないため、デリバティブ取引を利用したヘッジ会計は行っておりません。	(3) 取引の利用目的 同左
(4) 取引に係るリスクの内容 為替予約取引及び通貨スワップ取引は為替相場の変動によるリスクを有しております。なお、取引相手先は金融機関に限定しているため信用リスクはほとんどないと認識しております。	(4) 取引に係るリスクの内容 同左
(5) 取引に係るリスク管理体制 デリバティブ取引の執行・管理については、取引実施部門及び取引対象額等を定めた各社の社内ルールに従い、資金担当部門が資金担当部門長の承認を得て行っております。	(5) 取引に係るリスク管理体制 同左
(6) 取引の時価等に関する事項についての補足説明 取引の時価等に関する事項についての契約額等は、あくまでもデリバティブ取引における名目的な契約額であり、当該金額自体がデリバティブ取引のリスクの大きさを示すものではありません。	(6) 取引の時価等に関する事項についての補足説明 同左

2. 取引の時価等に関する事項

通貨関連

区分	種類	前連結会計年度(平成20年3月31日)				当連結会計年度(平成21年3月31日)			
		契約額等 (百万円)	契約額等の うち1年超 (百万円)	時価 (百万円)	評価損益 (百万円)	契約額等 (百万円)	契約額等の うち1年超 (百万円)	時価 (百万円)	評価損益 (百万円)
市場取引 以外の取 引	為替予約取引								
	売建								
	米ドル	-	-	-	-	824	-	848	24
	ユーロ	-	-	-	-	9	-	10	0
	日本円	-	-	-	-	100	-	125	24
	買建								
	米ドル	-	-	-	-	0	-	0	0
日本円	-	-	-	-	120	-	117	3	
	通貨スワップ 取引								
	支払 ルビア 受取 米ドル	34	24	3	3	21	17	2	2
	合計	-	-	-	3	-	-	-	43

(注) 時価の算定方法

取引先金融機関から提示された価格等に基づき算定しております。

(退職給付関係)

1. 採用している退職給付制度の概要

当社及び国内連結子会社は、全面的なポイント制を導入し、確定給付型の制度として、キャッシュバランスプラン型年金制度及び退職一時金制度を設ける他、確定拠出型年金制度も採用しております。

2. 退職給付債務に関する事項

	前連結会計年度 (平成20年3月31日現在) (百万円)	当連結会計年度 (平成21年3月31日現在) (百万円)
(1) 退職給付債務	11,741	11,780
(2) 年金資産	5,494	5,080
(3) 未積立退職給付債務(1) + (2)	6,247	6,699
(4) 未認識数理計算上の差異	529	1,138
(5) 退職給付引当金(3) + (4)	5,718	5,561

3. 退職給付費用に関する事項

	前連結会計年度 (平成19年4月1日から 平成20年3月31日まで) (百万円)	当連結会計年度 (平成20年4月1日から 平成21年3月31日まで) (百万円)
(1) 勤務費用	461	496
(2) 利息費用	236	234
(3) 期待運用収益	111	109
(4) 数理計算上の差異の費用処理額	37	526
(5) 退職給付費用(1) + (2) + (3) + (4)	549	1,147
(6) その他(注)	166	182
(7) 計 (5) + (6)	715	1,330

(注)「その他」は、確定拠出年金への掛金支払額であります。

4. 退職給付債務等の計算の基礎に関する事項

	前連結会計年度 (平成20年3月31日現在)	当連結会計年度 (平成21年3月31日現在)
(1) 退職給付見込額の期間配分方法	期間定額基準	期間定額基準
(2) 割引率	2.0%	2.0%
(3) 期待運用収益率	2.0%	2.0%
(4) 過去勤務債務の処理年数	1年	1年
(5) 数理計算上の差異の処理年数	1年	1年

(ストック・オプション等関係)

該当事項はありません。

(税効果会計関係)

前連結会計年度 (平成20年3月31日)	当連結会計年度 (平成21年3月31日)																																																																																																
<p>1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">繰延税金資産</td> <td style="text-align: right;">(百万円)</td> </tr> <tr> <td>退職給付引当金</td> <td style="text-align: right;">2,308</td> </tr> <tr> <td>繰越欠損金</td> <td style="text-align: right;">2,084</td> </tr> <tr> <td>未払賞与</td> <td style="text-align: right;">949</td> </tr> <tr> <td>減損損失</td> <td style="text-align: right;">474</td> </tr> <tr> <td>未実現損益(たな卸資産)</td> <td style="text-align: right;">385</td> </tr> <tr> <td>たな卸資産評価損</td> <td style="text-align: right;">304</td> </tr> <tr> <td>未払事業税</td> <td style="text-align: right;">279</td> </tr> <tr> <td>確定拠出年金未払金</td> <td style="text-align: right;">237</td> </tr> <tr> <td>未実現損益(固定資産)</td> <td style="text-align: right;">195</td> </tr> <tr> <td>製品保証引当金</td> <td style="text-align: right;">190</td> </tr> <tr> <td>役員退職慰労引当金</td> <td style="text-align: right;">184</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td style="text-align: right;">906</td> </tr> <tr> <td>小計</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">8,501</td> </tr> <tr> <td>評価性引当額</td> <td style="text-align: right;">1,100</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black; border-bottom: 3px double black;">7,400</td> </tr> <tr> <td>繰延税金負債</td> <td></td> </tr> <tr> <td>海外子会社の留保利益</td> <td style="text-align: right;">1,514</td> </tr> <tr> <td>有形固定資産</td> <td style="text-align: right;">822</td> </tr> <tr> <td>その他有価証券評価差額金</td> <td style="text-align: right;">291</td> </tr> <tr> <td>資産買換差益積立金</td> <td style="text-align: right;">334</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td style="text-align: right;">130</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">3,093</td> </tr> <tr> <td>繰延税金資産の純額</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black; border-bottom: 3px double black;">4,307</td> </tr> </table>	繰延税金資産	(百万円)	退職給付引当金	2,308	繰越欠損金	2,084	未払賞与	949	減損損失	474	未実現損益(たな卸資産)	385	たな卸資産評価損	304	未払事業税	279	確定拠出年金未払金	237	未実現損益(固定資産)	195	製品保証引当金	190	役員退職慰労引当金	184	その他	906	小計	8,501	評価性引当額	1,100	合計	7,400	繰延税金負債		海外子会社の留保利益	1,514	有形固定資産	822	その他有価証券評価差額金	291	資産買換差益積立金	334	その他	130	合計	3,093	繰延税金資産の純額	4,307	<p>1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">繰延税金資産</td> <td style="text-align: right;">(百万円)</td> </tr> <tr> <td>退職給付引当金</td> <td style="text-align: right;">2,245</td> </tr> <tr> <td>繰越欠損金</td> <td style="text-align: right;">1,723</td> </tr> <tr> <td>未払賞与</td> <td style="text-align: right;">725</td> </tr> <tr> <td>減損損失</td> <td style="text-align: right;">488</td> </tr> <tr> <td>たな卸資産評価損</td> <td style="text-align: right;">440</td> </tr> <tr> <td>未実現損益(たな卸資産)</td> <td style="text-align: right;">373</td> </tr> <tr> <td>製品保証引当金</td> <td style="text-align: right;">240</td> </tr> <tr> <td>未実現損益(固定資産)</td> <td style="text-align: right;">224</td> </tr> <tr> <td>役員退職慰労引当金</td> <td style="text-align: right;">221</td> </tr> <tr> <td>減価償却費超過</td> <td style="text-align: right;">111</td> </tr> <tr> <td>設備廃却損</td> <td style="text-align: right;">92</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td style="text-align: right;">839</td> </tr> <tr> <td>小計</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">7,727</td> </tr> <tr> <td>評価性引当額</td> <td style="text-align: right;">1,621</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black; border-bottom: 3px double black;">6,106</td> </tr> <tr> <td>繰延税金負債</td> <td></td> </tr> <tr> <td>有形固定資産</td> <td style="text-align: right;">832</td> </tr> <tr> <td>海外子会社の留保利益</td> <td style="text-align: right;">469</td> </tr> <tr> <td>資産買換差益積立金</td> <td style="text-align: right;">329</td> </tr> <tr> <td>その他有価証券評価差額金</td> <td style="text-align: right;">91</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td style="text-align: right;">182</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">1,907</td> </tr> <tr> <td>繰延税金資産の純額</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black; border-bottom: 3px double black;">4,199</td> </tr> </table>	繰延税金資産	(百万円)	退職給付引当金	2,245	繰越欠損金	1,723	未払賞与	725	減損損失	488	たな卸資産評価損	440	未実現損益(たな卸資産)	373	製品保証引当金	240	未実現損益(固定資産)	224	役員退職慰労引当金	221	減価償却費超過	111	設備廃却損	92	その他	839	小計	7,727	評価性引当額	1,621	合計	6,106	繰延税金負債		有形固定資産	832	海外子会社の留保利益	469	資産買換差益積立金	329	その他有価証券評価差額金	91	その他	182	合計	1,907	繰延税金資産の純額	4,199
繰延税金資産	(百万円)																																																																																																
退職給付引当金	2,308																																																																																																
繰越欠損金	2,084																																																																																																
未払賞与	949																																																																																																
減損損失	474																																																																																																
未実現損益(たな卸資産)	385																																																																																																
たな卸資産評価損	304																																																																																																
未払事業税	279																																																																																																
確定拠出年金未払金	237																																																																																																
未実現損益(固定資産)	195																																																																																																
製品保証引当金	190																																																																																																
役員退職慰労引当金	184																																																																																																
その他	906																																																																																																
小計	8,501																																																																																																
評価性引当額	1,100																																																																																																
合計	7,400																																																																																																
繰延税金負債																																																																																																	
海外子会社の留保利益	1,514																																																																																																
有形固定資産	822																																																																																																
その他有価証券評価差額金	291																																																																																																
資産買換差益積立金	334																																																																																																
その他	130																																																																																																
合計	3,093																																																																																																
繰延税金資産の純額	4,307																																																																																																
繰延税金資産	(百万円)																																																																																																
退職給付引当金	2,245																																																																																																
繰越欠損金	1,723																																																																																																
未払賞与	725																																																																																																
減損損失	488																																																																																																
たな卸資産評価損	440																																																																																																
未実現損益(たな卸資産)	373																																																																																																
製品保証引当金	240																																																																																																
未実現損益(固定資産)	224																																																																																																
役員退職慰労引当金	221																																																																																																
減価償却費超過	111																																																																																																
設備廃却損	92																																																																																																
その他	839																																																																																																
小計	7,727																																																																																																
評価性引当額	1,621																																																																																																
合計	6,106																																																																																																
繰延税金負債																																																																																																	
有形固定資産	832																																																																																																
海外子会社の留保利益	469																																																																																																
資産買換差益積立金	329																																																																																																
その他有価証券評価差額金	91																																																																																																
その他	182																																																																																																
合計	1,907																																																																																																
繰延税金資産の純額	4,199																																																																																																
<p>(注) 当連結会計年度における繰延税金資産の純額は、連結貸借対照表の以下の項目に含まれております。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;"></td> <td style="text-align: right;">(百万円)</td> </tr> <tr> <td>流動資産 - 繰延税金資産</td> <td style="text-align: right;">2,722</td> </tr> <tr> <td>固定資産 - 繰延税金資産</td> <td style="text-align: right;">3,105</td> </tr> <tr> <td>固定負債 - 繰延税金負債</td> <td style="text-align: right;">1,520</td> </tr> </table>		(百万円)	流動資産 - 繰延税金資産	2,722	固定資産 - 繰延税金資産	3,105	固定負債 - 繰延税金負債	1,520	<p>(注) 当連結会計年度における繰延税金資産の純額は、連結貸借対照表の以下の項目に含まれております。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;"></td> <td style="text-align: right;">(百万円)</td> </tr> <tr> <td>流動資産 - 繰延税金資産</td> <td style="text-align: right;">2,016</td> </tr> <tr> <td>固定資産 - 繰延税金資産</td> <td style="text-align: right;">2,744</td> </tr> <tr> <td>流動負債 - その他</td> <td style="text-align: right;">1</td> </tr> <tr> <td>固定負債 - 繰延税金負債</td> <td style="text-align: right;">560</td> </tr> </table>		(百万円)	流動資産 - 繰延税金資産	2,016	固定資産 - 繰延税金資産	2,744	流動負債 - その他	1	固定負債 - 繰延税金負債	560																																																																														
	(百万円)																																																																																																
流動資産 - 繰延税金資産	2,722																																																																																																
固定資産 - 繰延税金資産	3,105																																																																																																
固定負債 - 繰延税金負債	1,520																																																																																																
	(百万円)																																																																																																
流動資産 - 繰延税金資産	2,016																																																																																																
固定資産 - 繰延税金資産	2,744																																																																																																
流動負債 - その他	1																																																																																																
固定負債 - 繰延税金負債	560																																																																																																
<p>2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;"></td> <td style="text-align: right;">%</td> </tr> <tr> <td>法定実効税率</td> <td style="text-align: right;">40.4</td> </tr> <tr> <td>(調整)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>交際費等永久に損金に算入されない項目</td> <td style="text-align: right;">0.4</td> </tr> <tr> <td>国内会社の住民税均等割等</td> <td style="text-align: right;">0.1</td> </tr> <tr> <td>国内会社の試験研究費特別控除</td> <td style="text-align: right;">1.6</td> </tr> <tr> <td>海外子会社の税率差異</td> <td style="text-align: right;">4.0</td> </tr> <tr> <td>海外子会社の留保利益の増減</td> <td style="text-align: right;">2.5</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td style="text-align: right;">0.6</td> </tr> <tr> <td>税効果会計適用後の法人税等の負担率</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black; border-bottom: 3px double black;">37.2</td> </tr> </table>		%	法定実効税率	40.4	(調整)		交際費等永久に損金に算入されない項目	0.4	国内会社の住民税均等割等	0.1	国内会社の試験研究費特別控除	1.6	海外子会社の税率差異	4.0	海外子会社の留保利益の増減	2.5	その他	0.6	税効果会計適用後の法人税等の負担率	37.2	<p>2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;"></td> <td style="text-align: right;">%</td> </tr> <tr> <td>法定実効税率</td> <td style="text-align: right;">40.4</td> </tr> <tr> <td>(調整)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>海外子会社の留保利益の増減</td> <td style="text-align: right;">12.3</td> </tr> <tr> <td>海外子会社の税率差異</td> <td style="text-align: right;">6.6</td> </tr> <tr> <td>国内会社の試験研究費特別控除</td> <td style="text-align: right;">3.0</td> </tr> <tr> <td>国内会社の住民税均等割等</td> <td style="text-align: right;">0.3</td> </tr> <tr> <td>交際費等永久に損金に算入されない項目</td> <td style="text-align: right;">1.0</td> </tr> <tr> <td>受取配当金</td> <td style="text-align: right;">4.4</td> </tr> <tr> <td>評価性引当の増減</td> <td style="text-align: right;">6.3</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td style="text-align: right;">1.3</td> </tr> <tr> <td>税効果会計適用後の法人税等の負担率</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black; border-bottom: 3px double black;">29.2</td> </tr> </table>		%	法定実効税率	40.4	(調整)		海外子会社の留保利益の増減	12.3	海外子会社の税率差異	6.6	国内会社の試験研究費特別控除	3.0	国内会社の住民税均等割等	0.3	交際費等永久に損金に算入されない項目	1.0	受取配当金	4.4	評価性引当の増減	6.3	その他	1.3	税効果会計適用後の法人税等の負担率	29.2																																																				
	%																																																																																																
法定実効税率	40.4																																																																																																
(調整)																																																																																																	
交際費等永久に損金に算入されない項目	0.4																																																																																																
国内会社の住民税均等割等	0.1																																																																																																
国内会社の試験研究費特別控除	1.6																																																																																																
海外子会社の税率差異	4.0																																																																																																
海外子会社の留保利益の増減	2.5																																																																																																
その他	0.6																																																																																																
税効果会計適用後の法人税等の負担率	37.2																																																																																																
	%																																																																																																
法定実効税率	40.4																																																																																																
(調整)																																																																																																	
海外子会社の留保利益の増減	12.3																																																																																																
海外子会社の税率差異	6.6																																																																																																
国内会社の試験研究費特別控除	3.0																																																																																																
国内会社の住民税均等割等	0.3																																																																																																
交際費等永久に損金に算入されない項目	1.0																																																																																																
受取配当金	4.4																																																																																																
評価性引当の増減	6.3																																																																																																
その他	1.3																																																																																																
税効果会計適用後の法人税等の負担率	29.2																																																																																																

(セグメント情報)

【事業の種類別セグメント情報】

前連結会計年度(平成19年4月1日から平成20年3月31日まで)

	MT (百万円)	AT (百万円)	その他 (百万円)	計 (百万円)	消去又は 全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高及び営業損益						
売上高						
(1) 外部顧客に対する売上高	57,639	108,856	20,806	187,302	-	187,302
(2) セグメント間の内部売上高 又は振替高	386	1,656	3,682	5,725	(5,725)	-
計	58,026	110,513	24,489	193,028	(5,725)	187,302
営業費用	48,591	100,689	23,165	172,447	(4,925)	167,521
営業利益	9,435	9,823	1,323	20,581	(800)	19,781
資産、減価償却費、減損損失及び資本的 支出						
資産	44,494	80,836	17,368	142,699	15,447	158,147
減価償却費	3,021	7,130	813	10,966	(103)	10,862
減損損失	-	-	-	-	97	97
資本的支出	3,083	9,460	1,755	14,299	(56)	14,243

当連結会計年度(平成20年4月1日から平成21年3月31日まで)

	MT (百万円)	AT (百万円)	その他 (百万円)	計 (百万円)	消去又は 全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高及び営業損益						
売上高						
(1) 外部顧客に対する売上高	54,256	92,068	20,424	166,749	-	166,749
(2) セグメント間の内部売上高 又は振替高	375	1,609	5,305	7,289	(7,289)	-
計	54,631	93,677	25,729	174,039	(7,289)	166,749
営業費用	47,369	90,504	25,040	162,913	(6,381)	156,532
営業利益	7,262	3,173	689	11,125	(908)	10,217
資産、減価償却費、減損損失及び資本的 支出						
資産	37,585	71,076	16,355	125,016	11,890	136,907
減価償却費	2,964	8,190	1,274	12,429	(117)	12,312
減損損失	-	136	-	136	-	136
資本的支出	5,700	13,531	3,275	22,506	(82)	22,423

(注) 1. 事業区分の方法

当社の事業区分の方法は、製品の種類・市場における用途等を考慮して、自動車用の「MT(手動変速装置関連)」事業、自動車用の「AT(自動変速装置関連)」事業、産業機械用他の「その他」事業に区分しております。

2. 各事業区分の主要製品

事業区分	主要製品
MT	クラッチディスク、クラッチカバー、2マスフライホイール
AT	トルクコンバータ、オートマチックトランスミッション部品
その他	パワーシフトトランスミッション・同部品、トルクコンバータ、ブレーキ、リターダ、機械装置、金型治工具、運送請負、2輪用クラッチ

3. 消去又は全社の項目に含めた金額及び主な内容は以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (百万円)	当連結会計年度 (百万円)	主な内容
消去又は全社の項目に含めた配賦不能 営業費用	999	1,016	新製品開発費
消去又は全社の項目に含めた全社資産	17,036	13,191	親会社での余資産運用資金、長期投資資金等

4. 減価償却費及び資本的支出には、長期前払費用と同費用に係る償却額が含まれております。

5. 会計処理方法の変更

(前連結会計年度)

(会計方針の変更)

「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項 4.」に記載のとおり、当連結会計年度より有形固定資産の減価償却の方法を変更しております。この結果、従来の方法による場合と比較して、営業費用はM T事業が 88百万円、A T事業が 237百万円、その他事業が 49百万円増加し、営業利益はそれぞれ同額減少しております。

(追加情報)

平成19年度の法人税法の改正に伴い、平成19年3月31日以前に取得した有形固定資産については、改正前の法人税法に基づく減価償却の方法の適用により取得価額の5%に到達した連結会計年度の翌連結会計年度より、取得価額の5%相当額と備忘価額との差額を5年間にわたり均等償却し、減価償却費に含めて計上しております。この結果、従来の方法による場合と比較して、営業費用はM T事業が 154百万円、A T事業が 171百万円、その他事業が 79百万円増加し、営業利益はそれぞれ同額減少しております。

(当連結会計年度)

(追加情報)

「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項 4.」に記載のとおり、平成20年度の法人税法の改正による法定耐用年数の変更に伴い、機械装置について、当連結会計年度より耐用年数の変更を行っております。この結果、従来の方法による場合と比較して、営業費用はM T事業が 79百万円、A T事業が 307百万円、その他事業が 29百万円増加し、営業利益はそれぞれ同額減少しております。

【所在地別セグメント情報】

前連結会計年度(平成19年4月1日から平成20年3月31日まで)

	日本 (百万円)	米国 (百万円)	アジア・ オセアニア (百万円)	その他 (百万円)	計 (百万円)	消去又 は全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高及び営業損益							
売上高							
(1) 外部顧客に対する売上高	123,900	34,275	26,224	2,902	187,302	-	187,302
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	16,548	378	5,761	4	22,692	(22,692)	-
計	140,448	34,653	31,986	2,906	209,995	(22,692)	187,302
営業費用	126,795	33,496	27,316	2,480	190,089	(22,567)	167,521
営業利益	13,653	1,156	4,669	426	19,906	(124)	19,781
資産	87,432	25,669	31,516	2,022	146,641	11,505	158,147

当連結会計年度(平成20年4月1日から平成21年3月31日まで)

	日本 (百万円)	米国 (百万円)	アジア・ オセアニア (百万円)	その他 (百万円)	計 (百万円)	消去又 は全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高及び営業損益							
売上高							
(1) 外部顧客に対する売上高	104,462	30,779	28,861	2,645	166,749	-	166,749
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	17,029	291	5,036	11	22,369	(22,369)	-
計	121,492	31,071	33,897	2,657	189,118	(22,369)	166,749
営業費用	116,895	30,363	29,502	2,221	178,983	(22,450)	156,532
営業利益	4,597	707	4,394	436	10,135	81	10,217
資産	79,508	19,207	30,709	1,694	131,120	5,787	136,907

(注) 1. 「消去又は全社」に含めた資産の金額及び主な内容は、「事業の種類別セグメント情報」の「注3」の消去又は全社の項目に含めた資産の金額及び主な内容と同一であります。

2. 国又は地域は、地理的近接度により区分しております。

3. (前連結会計年度)

「アジア・オセアニア」の区分に属する国は、タイ、マレーシア、中国、インドネシア、ベトナム、豪州及びアラブ首長国連邦であります。

(当連結会計年度)

「アジア・オセアニア」の区分に属する国は、タイ、マレーシア、中国、インドネシア、ベトナム、豪州、アラブ首長国連邦及びニュージーランドであります。

4. 「その他」の区分に属する国又は地域は、欧州であります。

5. 会計処理方法の変更

(前連結会計年度)

(会計方針の変更)

「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項 4.」に記載のとおり、当連結会計年度より有形固定資産の減価償却の方法を変更しております。この結果、従来の方法による場合と比較して、営業費用は日本が 375百万円増加し、営業利益は同額減少しております。

(追加情報)

平成19年度の法人税法の改正に伴い、平成19年3月31日以前に取得した有形固定資産については、改正前の法人税法に基づく減価償却の方法の適用により取得価額の5%に到達した連結会計年度の翌連結会計年度より、取得価額の5%相当額と備忘価額との差額を5年間にわたり均等償却し、減価償却費に含めて計上しております。この結果、従来の方法によった場合と比較して、営業費用は日本が405百万円増加し、営業利益は同額減少しております。

(当連結会計年度)

(追加情報)

「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項 4.」に記載のとおり、平成20年度の法人税法の改正による法定耐用年数の変更に伴い、機械装置について、当連結会計年度より耐用年数の変更を行っております。この結果、従来の方法によった場合と比較して、営業費用は日本が416百万円増加し、営業利益は同額減少しております。

【海外売上高】

前連結会計年度(平成19年4月1日から平成20年3月31日まで)

	米国	アジア・オセアニア	その他	計
海外売上高(百万円)	34,678	32,032	9,003	75,714
連結売上高(百万円)	-	-	-	187,302
連結売上高に占める海外売上高の割合(%)	18.5	17.1	4.8	40.4

当連結会計年度(平成20年4月1日から平成21年3月31日まで)

	米国	アジア・オセアニア	その他	計
海外売上高(百万円)	31,164	33,247	7,308	71,720
連結売上高(百万円)	-	-	-	166,749
連結売上高に占める海外売上高の割合(%)	18.7	19.9	4.4	43.0

(注) 1. 国又は地域は、地理的近接度により区分しております。

2. 「米国」の区分には、メキシコを含めております。

3. (前連結会計年度)

「アジア・オセアニア」の区分に属する国は、タイ、マレーシア、中国、インドネシア、ベトナム、豪州及びアラブ首長国連邦であります。

(当連結会計年度)

「アジア・オセアニア」の区分に属する国は、タイ、マレーシア、中国、インドネシア、ベトナム、豪州、アラブ首長国連邦及びニュージーランドであります。

4. 「その他」の区分に属する主な地域は、欧州であります。

5. 海外売上高は、当社及び連結子会社の本邦以外の国又は地域における売上高であります。

【関連当事者情報】

前連結会計年度（平成19年4月1日から平成20年3月31日まで）

(1) 兄弟会社等

属性	会社等の名称	住所	資本金又は出資金 (百万円)	事業の内容	議決権等の所有 (被所有)割合	関係内容		取引の内容	取引金額 (百万円)	科目	期末金額 (百万円)
						役員の兼任	事業上の関係				
その他の関係会社の子会社	アイシン・エイ・ダブリュ株式会社	愛知県安城市	26,480	自動車部品製造業	-	1名	製品の販売	製品の販売	9,035	売掛金前受金	1,915 6

(注) 上記の金額のうち、取引金額には消費税等が含まれず、期末残高には消費税等が含まれております。

取引条件及び取引条件の決定方針等

アイシン・エイ・ダブリュ株式会社との価格その他の取引条件は、市場実勢を勘案して当社及び当社の連結子会社が希望価額を提示し、交渉の上決定しております。

当連結会計年度（平成20年4月1日から平成21年3月31日まで）

(追加情報)

当連結会計年度より、「関連当事者の開示に関する会計基準」（企業会計基準第11号 平成18年10月17日）及び「関連当事者の開示に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第13号 平成18年10月17日）を適用しております。

この結果、従来の開示対象範囲に加えて、ダイナックス及びエクセディアメリカを開示対象として追加しております。

1. 関連当事者との取引

(1) 連結財務諸表提出会社と関連当事者との取引

連結財務諸表提出会社のその他の関係会社の子会社等

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は出資金 (百万円)	事業の内容又は職業	議決権等の所有 (被所有)割合 (%)	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額 (百万円)	科目	期末金額 (百万円)
その他の関係会社の子会社	アイシン・エイ・ダブリュ株式会社	愛知県安城市	26,480	自動車部品製造業	-	製品の販売先	製品の販売、 役員の兼任	3,973	売掛金前受金	502 0

(注) 上記の金額のうち、取引金額には消費税等が含まれず、期末残高には消費税等が含まれております。

取引条件及び取引条件の決定方針等

価格その他の取引条件は、市場実勢を勘案して当社が希望価額を提示し、交渉の上決定しております。

(2) 連結財務諸表提出会社の連結子会社と関連当事者との取引

連結財務諸表提出会社のその他の関係会社の子会社等

ダイナックス

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は出資金 (百万円)	事業の内容又は職業	議決権等の所有 (被所有)割合 (%)	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額 (百万円)	科目	期末金額 (百万円)
その他の関係会社の子会社	アイシン・エイ・ダブリュ株式会社	愛知県安城市	26,480	自動車部品製造業	-	製品の販売先	製品の販売	2,373	売掛金	215

(注) 上記の金額のうち、取引金額には消費税等が含まれず、期末残高には消費税等が含まれております。

取引条件及び取引条件の決定方針等

価格その他の取引条件は、市場実勢を勘案してダイナックスが希望価額を提示し、交渉の上決定しております。

エクセディアメリカ

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は出資金 (千米ドル)	事業の内容又は職業	議決権等の所有 (被所有)割合 (%)	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額 (百万円)	科目	期末金額 (百万円)
その他の関係会社の子会社	アイシン・ホールディングス・オブ・アメリカ	米国インディアナ州	282,290	北米事業の統括等	(被所有) 直接 40.00	資金の借入	支払利息	85	長期借入金	1,529

取引条件及び取引条件の決定方針等

借入に関する取引条件は、市場金利等を勘案し、交渉の上決定しております。

2. 親会社又は重要な関連会社に関する注記

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

	前連結会計年度 (平成19年4月1日から 平成20年3月31日まで)	当連結会計年度 (平成20年4月1日から 平成21年3月31日まで)
1株当たり純資産額	2,102円64銭	1,999円38銭
1株当たり当期純利益	239円95銭	112円00銭

(注) 1. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2. 1株当たり当期純利益の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成19年4月1日から 平成20年3月31日まで)	当連結会計年度 (平成20年4月1日から 平成21年3月31日まで)
1株当たり当期純利益		
当期純利益(百万円)	11,658	5,441
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る当期純利益(百万円)	11,658	5,441
普通株式の期中平均株式数(千株)	48,585	48,582

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

【連結附属明細表】

【社債明細表】

該当事項はありません。

【借入金等明細表】

区分	前期末残高 (百万円)	当期末残高 (百万円)	平均利率 (%)	返済期限
短期借入金	5,193	3,680	3.9	-
1年以内に返済予定の長期借入金	519	801	4.5	-
1年以内に返済予定のリース債務	-	4	-	-
長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く)	2,965	2,627	3.6	平成22年～31年
リース債務(1年以内に返済予定のものを除く)	-	14	-	平成22年～25年
その他有利子負債				
預り金	107	79	0.9	-
合計	8,785	7,208	-	-

(注) 1. 平均利率は、借入金等の当期末残高に対する加重平均利率を記載しております。

2. リース債務の平均利率については、リース料総額に含まれる利息相当額を控除する前の金額でリース債務を連結貸借対照表に計上しているため、記載していません。

3. 長期借入金及びリース債務(1年以内に返済予定のものを除く)の連結決算日後5年間の返済予定額は以下のとおりであります。

	1年超2年以内 (百万円)	2年超3年以内 (百万円)	3年超4年以内 (百万円)	4年超5年以内 (百万円)
長期借入金	864	72	1,577	21
リース債務	4	4	4	1

(2) 【その他】

当連結会計年度における四半期情報

	第1四半期 平成20年4月1日から 平成20年6月30日まで	第2四半期 平成20年7月1日から 平成20年9月30日まで	第3四半期 平成20年10月1日から 平成20年12月31日まで	第4四半期 平成21年1月1日から 平成21年3月31日まで
売上高(百万円)	47,430	48,507	40,690	30,121
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失() (百万円)	5,380	3,530	1,300	1,717
四半期純利益又は四半期純損失 ()(百万円)	3,110	1,966	758	394
1株当たり四半期純利益又は1株 当たり四半期純損失()(円)	64.02	40.48	15.61	8.12

2【財務諸表等】
(1)【財務諸表】
【貸借対照表】

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成20年3月31日)	当事業年度 (平成21年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	12,761	9,315
受取手形	1,814	1,388
売掛金	20,940 ¹	13,982 ¹
製品	2,287	-
商品及び製品	-	1,071
仕掛品	1,588	1,335
原材料	1,080	-
貯蔵品	60	-
原材料及び貯蔵品	-	807
前渡金	1,083	489
前払費用	153	101
繰延税金資産	1,646	1,279
短期貸付金	1,667 ¹	2,042 ¹
未収還付法人税等	-	888
その他	134	209
貸倒引当金	186	442
流動資産合計	45,033	32,470
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	6,135 ²	6,153 ²
構築物（純額）	339 ²	437 ²
機械及び装置（純額）	11,278 ²	11,354 ²
車両運搬具（純額）	45 ²	36 ²
工具、器具及び備品（純額）	2,110 ²	1,528 ²
土地	4,926	4,926
建設仮勘定	3,160	3,166
有形固定資産合計	27,995	27,603
無形固定資産		
借地権	35	35
商標権	20	19
ソフトウェア	131	294
その他	8	6
無形固定資産合計	197	356
投資その他の資産		
投資有価証券	1,363	711
関係会社株式	14,877	14,893
関係会社出資金	4,100	4,600
従業員に対する長期貸付金	119	113
関係会社長期貸付金	750	3,703
長期前払費用	85	52
繰延税金資産	1,354	1,515
その他	469	450
貸倒引当金	12	66
投資その他の資産合計	23,107	25,973
固定資産合計	51,300	53,933
資産合計	96,333	86,404

	前事業年度 (平成20年3月31日)	当事業年度 (平成21年3月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形	435	240
買掛金	1 7,961	1 4,287
未払金	1,446	992
未払費用	3,583	2,681
未払法人税等	1,849	44
前受金	103	61
預り金	1 9,046	1 5,811
製品保証引当金	450	545
その他	44	22
流動負債合計	24,921	14,688
固定負債		
退職給付引当金	4,722	4,546
役員退職慰労引当金	349	407
その他	0	1
固定負債合計	5,072	4,956
負債合計	29,993	19,644
純資産の部		
株主資本		
資本金	8,284	8,284
資本剰余金		
資本準備金	7,540	7,540
資本剰余金合計	7,540	7,540
利益剰余金		
利益準備金	1,805	1,805
その他利益剰余金		
特別償却準備金	42	3
買換資産積立金	493	486
別途積立金	40,920	43,920
繰越利益剰余金	6,864	4,621
利益剰余金合計	50,126	50,837
自己株式	35	37
株主資本合計	65,915	66,624
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	424	135
評価・換算差額等合計	424	135
純資産合計	66,340	66,760
負債純資産合計	96,333	86,404

【損益計算書】

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成19年4月1日から 平成20年3月31日まで)	当事業年度 (平成20年4月1日から 平成21年3月31日まで)
売上高	2 102,187	2 92,291
売上原価		
製品期首たな卸高	2,057	2,287
当期製品製造原価	81,990	76,619
合計	84,047	78,906
製品期末たな卸高	2,287	1,071
製品売上原価	1 81,760	1 77,835
売上総利益	20,426	14,456
販売費及び一般管理費		
荷造運搬費	2,309	1,952
製品保証引当金繰入額	398	256
貸倒引当金繰入額	13	313
販売雑費	408	-
役員報酬及び給料手当	2,936	2,955
福利厚生費	361	388
退職給付費用	91	167
役員退職慰労引当金繰入額	185	58
旅費及び通信費	290	-
情報処理費	382	-
減価償却費	269	234
研究開発費	3 3,514	3 3,666
その他	978	1,982
販売費及び一般管理費合計	12,140	11,974
営業利益	8,286	2,481
営業外収益		
受取利息	67	129
受取配当金	2 1,832	2 2,519
受取賃貸料	2 63	2 62
その他	143	236
営業外収益合計	2,106	2,948
営業外費用		
支払利息	71	71
固定資産除売却損	190	199
損失補償	179	-
為替差損	237	371
その他	109	117
営業外費用合計	788	759
経常利益	9,604	4,670

	前事業年度 (平成19年4月1日から 平成20年3月31日まで)	当事業年度 (平成20年4月1日から 平成21年3月31日まで)
特別利益		
貸倒引当金戻入額	264	-
製品保証引当金戻入額	560	-
特別利益合計	824	-
特別損失		
投資有価証券評価損	-	173
減損損失	97	-
特別損失合計	97	173
税引前当期純利益	10,331	4,496
法人税、住民税及び事業税	3,031	566
法人税等調整額	534	401
法人税等合計	3,565	967
当期純利益	6,766	3,528

【製造原価明細書】

区分	注記 番号	前事業年度 (平成19年4月1日から 平成20年3月31日まで)			当事業年度 (平成20年4月1日から 平成21年3月31日まで)			
		金額(百万円)		構成比 (%)	金額(百万円)		構成比 (%)	
材料費	1		45,640	55.3		41,236	53.7	
労務費			15,003	18.2		14,472	18.8	
経費								
1. 外注加工費		12,155			11,007			
2. 減価償却費		4,625			5,360			
3. その他		5,084	21,865	26.5	4,740	21,109	27.5	
当期総製造費用			82,510	100.0		76,818	100.0	
期首仕掛品たな卸高			1,428			1,588		
合計			83,938			78,407		
期末仕掛品たな卸高			1,588			1,335		
他勘定振替高	2		359			452		
当期製品製造原価			81,990			76,619		

(脚注)

(1) 1 労務費のうち、退職給付費用は、前事業年度 397百万円、当事業年度 756百万円であります。

2 他勘定振替高の内訳

	前事業年度	当事業年度
建設仮勘定	327百万円	391百万円
その他	32百万円	60百万円

(2) 原価計算の方法

実際原価による組別総合原価計算であります。基準原価により製造原価を把握し、実際原価との差額は原価差額として処理しております。但し、金型・治工具等製作部門については個別原価計算であります。

【株主資本等変動計算書】

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成19年4月1日から 平成20年3月31日まで)	当事業年度 (平成20年4月1日から 平成21年3月31日まで)
株主資本		
資本金		
前期末残高	8,284	8,284
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	8,284	8,284
資本剰余金		
資本準備金		
前期末残高	7,540	7,540
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	7,540	7,540
利益剰余金		
利益準備金		
前期末残高	1,805	1,805
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	1,805	1,805
その他利益剰余金		
特別償却準備金		
前期末残高	112	42
当期変動額		
特別償却準備金の取崩	69	39
当期変動額合計	69	39
当期末残高	42	3
買換資産積立金		
前期末残高	499	493
当期変動額		
買換資産積立金の取崩	6	6
当期変動額合計	6	6
当期末残高	493	486
別途積立金		
前期末残高	38,920	40,920
当期変動額		
別途積立金の積立	2,000	3,000
当期変動額合計	2,000	3,000
当期末残高	40,920	43,920
繰越利益剰余金		
前期末残高	3,795	6,864
当期変動額		
剰余金の配当	1,773	2,817
特別償却準備金の取崩	69	39
買換資産積立金の取崩	6	6
別途積立金の積立	2,000	3,000
当期純利益	6,766	3,528
当期変動額合計	3,068	2,243
当期末残高	6,864	4,621

	前事業年度 (平成19年4月1日から 平成20年3月31日まで)	当事業年度 (平成20年4月1日から 平成21年3月31日まで)
利益剰余金合計		
前期末残高	45,133	50,126
当期変動額		
剰余金の配当	1,773	2,817
当期純利益	6,766	3,528
当期変動額合計	4,992	711
当期末残高	50,126	50,837
自己株式		
前期末残高	26	35
当期変動額		
自己株式の取得	9	1
当期変動額合計	9	1
当期末残高	35	37
株主資本合計		
前期末残高	60,932	65,915
当期変動額		
剰余金の配当	1,773	2,817
当期純利益	6,766	3,528
自己株式の取得	9	1
当期変動額合計	4,983	709
当期末残高	65,915	66,624
評価・換算差額等		
 その他有価証券評価差額金		
前期末残高	668	424
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	244	289
当期変動額合計	244	289
当期末残高	424	135
純資産合計		
前期末残高	61,601	66,340
当期変動額		
剰余金の配当	1,773	2,817
当期純利益	6,766	3,528
自己株式の取得	9	1
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	244	289
当期変動額合計	4,738	420
当期末残高	66,340	66,760

<p>前事業年度 (平成19年4月1日から 平成20年3月31日まで)</p>	<p>当事業年度 (平成20年4月1日から 平成21年3月31日まで)</p>
<p>無形固定資産 自社利用のソフトウェアは社内における利用可能期間(3～5年)に基づく定額法によっており、その他の無形固定資産については、定額法によっております。</p> <p>5. 外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算基準 外貨建取引等会計処理基準を適用しております。</p> <p>6. 引当金の計上基準 貸倒引当金 売上債権・貸付金等の債権の貸倒損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。 製品保証引当金 製品の品質に係るクレーム処理の費用に備えるため、過去のクレーム発生率に基づき、予想される発生見込額を計上しております。 退職給付引当金 従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき計上しております。 なお、数理計算上の差異は、発生時の翌事業年度に全額費用処理しております。過去勤務債務は、発生した事業年度に全額費用処理しております。 役員退職慰労引当金 役員の退職金の支払に備えるため、内規による当事業年度末必要額を計上しております。</p> <p>7. リース取引の処理方法 リース物件の所有権が借主に移転すると認められるもの以外のファイナンス・リース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっております。</p> <p>8. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項 消費税等の会計処理 消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。</p>	<p>無形固定資産(リース資産を除く) 同左</p> <p>リース資産 リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。 なお、所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が平成20年3月31日以前のリース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっております。</p> <p>5. 外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算基準 同左</p> <p>6. 引当金の計上基準 貸倒引当金 同左</p> <p>製品保証引当金 同左</p> <p>退職給付引当金 同左</p> <p>役員退職慰労引当金 同左</p> <p>7.</p> <p>8. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項 消費税等の会計処理 同左</p>

【会計処理方法の変更】

前事業年度 (平成19年4月1日から 平成20年3月31日まで)	当事業年度 (平成20年4月1日から 平成21年3月31日まで)
	<p>(リース取引に関する会計基準)</p> <p>所有権移転外ファイナンス・リース取引については、従来、賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっておりましたが、当事業年度より、「リース取引に関する会計基準」(企業会計基準第13号(平成5年6月17日(企業会計審議会第一部会)、平成19年3月30日改正))及び「リース取引に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第16号(平成6年1月18日(日本公認会計士協会 会計制度委員会)、平成19年3月30日改正))を適用し、通常の売買取引に係る方法に準じた会計処理によっております。</p> <p>なお、所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が平成20年3月31日以前のリース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっております。</p> <p>これによる当事業年度の営業利益、経常利益及び税引前当期純利益に与える影響はありません。</p>

【表示方法の変更】

前事業年度 (平成19年4月1日から 平成20年3月31日まで)	当事業年度 (平成20年4月1日から 平成21年3月31日まで)
	<p>(貸借対照表)</p> <p>「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則等の一部を改正する内閣府令」(平成20年8月7日 内閣府令第50号)が適用となることに伴い、前事業年度において、「製品」「原材料」「貯蔵品」として掲記していたものを、当事業年度より「商品及び製品」「原材料及び貯蔵品」に区分掲記することといたしました。</p> <p>なお、当事業年度の「商品」「製品」「原材料」「貯蔵品」は、それぞれ 181百万円、890百万円、735百万円、72百万円であります。</p> <p>(損益計算書)</p> <p>販売費及び一般管理費の「販売雑費」(当事業年度 230百万円)は、重要性が乏しいため、当事業年度より販売費及び一般管理費の「その他」に含めることといたしました。</p> <p>販売費及び一般管理費の「旅費及び通信費」(当事業年度 289百万円)は、重要性が乏しいため、当事業年度より販売費及び一般管理費の「その他」に含めることといたしました。</p> <p>販売費及び一般管理費の「情報処理費」(当事業年度 434百万円)は、重要性が乏しいため、当事業年度より販売費及び一般管理費の「その他」に含めることといたしました。</p>

【注記事項】

(貸借対照表関係)

前事業年度 (平成20年3月31日)	当事業年度 (平成21年3月31日)
1 関係会社に対する債権・債務	1 関係会社に対する債権・債務
売掛金 1,875百万円	売掛金 1,916百万円
短期貸付金 1,667百万円	短期貸付金 2,042百万円
買掛金 1,350百万円	買掛金 842百万円
預り金 8,979百万円	預り金 5,731百万円
2 有形固定資産の減価償却累計額 70,246百万円	2 有形固定資産の減価償却累計額 74,256百万円
3 偶発債務	3 偶発債務
関係会社の銀行等よりの借入金に対する保証	関係会社の銀行等よりの借入金に対する保証
エクセディ(上海) 239百万円	エクセディ(上海) 1,036百万円
エクセディアメリカ 1,019百万円	エクセディアメリカ 1,000百万円
エクセディベトナム 80百万円	エクセディグローバルパーツ 347百万円

(損益計算書関係)

前事業年度 (平成19年4月1日から 平成20年3月31日まで)	当事業年度 (平成20年4月1日から 平成21年3月31日まで)												
1 低価法による評価減の金額は 260百万円であります。	1 期末たな卸高は収益性の低下に基づく簿価切下後の金額であり、次のたな卸資産評価損が売上原価に含まれております。 262百万円												
2 関係会社に対する収益	2 関係会社に対する収益												
売上高 14,488百万円	売上高 15,274百万円												
営業外収益	営業外収益												
受取配当金 1,808百万円	受取配当金 2,492百万円												
受取賃貸料 55百万円	受取賃貸料 55百万円												
3 研究開発費の総額	3 研究開発費の総額												
一般管理費 3,514百万円	一般管理費 3,666百万円												
4 減損損失 当事業年度において、以下の資産グループについて減損損失を計上しました。													
<table border="1"> <thead> <tr> <th>場所</th> <th>用途</th> <th>種類</th> <th>金額 (百万円)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>事業の種類別のグルーピングに属さない兵庫県丹波市青垣町所在の土地</td> <td>遊休地</td> <td>土地</td> <td>69</td> </tr> <tr> <td>事業の種類別のグルーピングに属さない大阪府枚方市穂谷所在の土地</td> <td>遊休地</td> <td>土地</td> <td>27</td> </tr> </tbody> </table>	場所	用途	種類	金額 (百万円)	事業の種類別のグルーピングに属さない兵庫県丹波市青垣町所在の土地	遊休地	土地	69	事業の種類別のグルーピングに属さない大阪府枚方市穂谷所在の土地	遊休地	土地	27	
場所	用途	種類	金額 (百万円)										
事業の種類別のグルーピングに属さない兵庫県丹波市青垣町所在の土地	遊休地	土地	69										
事業の種類別のグルーピングに属さない大阪府枚方市穂谷所在の土地	遊休地	土地	27										
<p>事業の種類別にMT(手動変速装置関連事業)、AT(自動変速装置関連事業)、産業機械用駆動及び伝導装置関連事業、その他の事業及び事業の種類別のグルーピングに属さない資産にグルーピングしております。</p> <p>グルーピングの単位である各事業においては、減損の兆候はありませんでしたが、事業の種類別のグルーピングに属さない資産にグルーピングされる上記の土地については、地価が帳簿価額に対して下落しているため、当事業年度において、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減額を減損損失(97百万円)として特別損失に計上しております。</p> <p>なお、当資産グループの回収可能価額は正味売却価額により測定しており、土地については固定資産税評価額により評価しております。</p>													

(株主資本等変動計算書関係)

前事業年度(平成19年4月1日から平成20年3月31日まで)

自己株式の種類及び株式数に関する事項

	前事業年度末 株 式数(千株)	当事業年度増加 株式数(千株)	当事業年度減少 株式数(千株)	当事業年度末 株 式数(千株)
自己株式				
普通株式(注)	7	2	-	10
合計	7	2	-	10

(注) 自己株式の普通株式の増加2千株は、単元未満株式の買取による増加であります。

当事業年度(平成20年4月1日から平成21年3月31日まで)

自己株式の種類及び株式数に関する事項

	前事業年度末 株 式数(千株)	当事業年度増加 株式数(千株)	当事業年度減少 株式数(千株)	当事業年度末 株 式数(千株)
自己株式				
普通株式(注)	10	1	-	11
合計	10	1	-	11

(注) 自己株式の普通株式の増加1千株は、単元未満株式の買取による増加であります。

(リース取引関係)

前事業年度(平成19年4月1日から平成20年3月31日まで)

1. リース物件の所有権が借主に移転すると認められるもの以外のファイナンス・リース取引(借主側)

(1) リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額、減損損失累計額相当額及び期末残高相当額

	取得価額 相当額 (百万円)	減価償却累 計額相当額 (百万円)	減損損失累 計額相当額 (百万円)	期末残高 相当額 (百万円)
機械及び装置	27	14	-	13
車両運搬具	65	26	-	39
工具、器具及び備品	45	20	-	24
合計	138	60	-	77

なお、取得価額相当額は、未経過リース料期末残高が有形固定資産の期末残高等に占める割合が低いため、支払利子込み法により算定しております。

(2) 未経過リース料期末残高相当額等

未経過リース料期末残高相当額	
1年内	27百万円
1年超	49百万円
計	77百万円

リース資産減損勘定の残高 - 百万円

なお、未経過リース料期末残高相当額は、未経過リース料期末残高が有形固定資産の期末残高等に占める割合が低いため、支払利子込み法により算定しております。

(3) 支払リース料、リース資産減損勘定の取崩額、減価償却費相当額及び減損損失

支払リース料	35百万円
リース資産減損勘定の取崩額	- 百万円
減価償却費相当額	35百万円
減損損失	- 百万円

(4) 減価償却費相当額の算定方法

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。

2. オペレーティング・リース取引(借主側)

未経過リース料

1年内	3百万円
1年超	9百万円
計	12百万円

当事業年度(平成20年4月1日から平成21年3月31日まで)

1. ファイナンス・リース取引(借主側)

所有権移転外ファイナンス・リース取引

リース資産の内容

該当事項はありません。

リース資産の減価償却の方法

重要な会計方針「4. 固定資産の減価償却の方法」に記載のとおりであります。

なお、所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が、平成20年3月31日以前のリース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっており、その内容は次のとおりであります。

(1) リース物件の所有権が借主に移転すると認められるもの以外のファイナンス・リース取引(借主側)

リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額、減損損失累計額相当額及び期末残高相当額

	取得価額 相当額 (百万円)	減価償却累 計額相当額 (百万円)	減損損失累 計額相当額 (百万円)	期末残高 相当額 (百万円)
機械及び装置	27	18	-	9
車両運搬具	45	16	-	29
工具、器具及び備品	41	30	-	10

	取得価額 相当額 (百万円)	減価償却累 計額相当額 (百万円)	減損損失累 計額相当額 (百万円)	期末残高 相当額 (百万円)
合計	115	65	-	49

なお、取得価額相当額は、未経過リース料期末残高が有形固定資産の期末残高等に占める割合が低いため、支払利子込み法により算定しております。

未経過リース料期末残高相当額等

未経過リース料期末残高相当額	
1年内	20百万円
1年超	29百万円
計	49百万円
リース資産減損勘定の残高	-百万円

なお、未経過リース料期末残高相当額は、未経過リース料期末残高が有形固定資産の期末残高等に占める割合が低いため、支払利子込み法により算定しております。

支払リース料、リース資産減損勘定の取崩額、減価償却費相当額及び減損損失

支払リース料	28百万円
リース資産減損勘定の取崩額	-百万円
減価償却費相当額	28百万円
減損損失	-百万円

減価償却費相当額の算定方法

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。

2. オペレーティング・リース取引（借主側）

オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料

1年内	2百万円
1年超	6百万円
計	9百万円

(有価証券関係)

子会社株式及び関連会社株式で時価のあるもの

	前事業年度(平成20年3月31日)			当事業年度(平成21年3月31日)		
	貸借対照表計上額(百万円)	時価(百万円)	差額(百万円)	貸借対照表計上額(百万円)	時価(百万円)	差額(百万円)
子会社株式	-	-	-	-	-	-
関連会社株式	21	227	206	21	46	24
合計	21	227	206	21	46	24

(税効果会計関係)

前事業年度 (平成20年3月31日)		当事業年度 (平成21年3月31日)	
1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳 (百万円)		1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳 (百万円)	
繰延税金資産		繰延税金資産	
退職給付引当金	1,907	退職給付引当金	1,836
未払賞与	685	未払賞与	543
減損損失	472	減損損失	472
確定拠出年金未払金	237	製品保証引当金	220
製品保証引当金	182	未払事業税	14
未払事業税	163	確定拠出年金未払金	6
その他	632	その他	911
小計	4,281	小計	4,004
評価性引当額	629	評価性引当額	737
合計	3,651	合計	3,266
繰延税金負債		繰延税金負債	
その他有価証券評価差額金	287	資産買換差益積立金	329
資産買換差益積立金	334	その他有価証券評価差額金	91
特別償却準備金	28	事業税	47
合計	650	特別償却準備金	2
繰延税金資産の純額	3,000	合計	471
		繰延税金資産の純額	2,795
(注) 当事業年度における繰延税金資産の純額は、貸借対照表の以下の項目に含まれております。		(注) 当事業年度における繰延税金資産の純額は、貸借対照表の以下の項目に含まれております。	
流動資産 - 繰延税金資産	1,646	流動資産 - 繰延税金資産	1,279
固定資産 - 繰延税金資産	1,354	固定資産 - 繰延税金資産	1,515
2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳		2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳	
	%		%
法定実効税率	40.4	法定実効税率	40.4
(調整)		(調整)	
交際費等永久に損金に算入されない項目	0.3	交際費等永久に損金に算入されない項目	0.6
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	3.3	受取配当金等永久に益金に算入されない項目	10.4
住民税均等割等	0.2	住民税均等割等	0.4
試験研究費特別控除	2.4	試験研究費特別控除	3.9
その他	0.7	外国税額控除	7.8
税効果会計適用後の法人税等の負担率	34.5	その他	2.2
		税効果会計適用後の法人税等の負担率	21.5

(1株当たり情報)

前事業年度 (平成19年4月1日から 平成20年3月31日まで)		当事業年度 (平成20年4月1日から 平成21年3月31日まで)	
1株当たり純資産額	1,365円49銭	1株当たり純資産額	1,374円17銭
1株当たり当期純利益	139円27銭	1株当たり当期純利益	72円64銭

(注) 1. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載していません。

2. 1株当たり当期純利益の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前事業年度 (平成19年4月1日から 平成20年3月31日まで)	当事業年度 (平成20年4月1日から 平成21年3月31日まで)
1株当たり当期純利益		
当期純利益(百万円)	6,766	3,528
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る当期純利益(百万円)	6,766	3,528
普通株式の期中平均株式数(千株)	48,585	48,582

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

【附属明細表】

【有価証券明細表】

【株式】

投資有価証券	銘柄	株式数(株)	貸借対照表計上額(百万円)	
			借	貸
その他有価証券	S P K(株)	100,000	105	
	日野自動車(株)	380,750	81	
	ダイハツ工業(株)	102,500	78	
	(株)タダノ	180,000	73	
	スズキ(株)	42,000	68	
	(株)小松製作所	40,505	43	
	日本興亜損害保険(株)	40,000	22	
	日新製鋼(株)	130,000	21	
	ジェイエフイーホールディングス(株)	10,000	21	
	いすゞ自動車(株)	169,850	20	
	その他24銘柄	814,694	173	
	計	2,010,299	711	

【有形固定資産等明細表】

資産の種類	前期末残高 (百万円)	当期増加額 (百万円)	当期減少額 (百万円)	当期末残高 (百万円)	当期末減価 却累計額又は 償却累計額 (百万円)	当期償却額 (百万円)	差引当期末 残高 (百万円)
有形固定資産							
建物	15,709	540	39	16,210	10,056	520	6,153
構築物	1,429	161	6	1,584	1,146	62	437
機械及び装置	51,957	3,555	1,808	53,704	42,349	3,364	11,354
車両運搬具	293	18	14	297	261	25	36
工具、器具及び備品	20,765	1,303	96	21,971	20,442	1,877	1,528
土地	4,926	-	-	4,926	-	-	4,926
建設仮勘定	3,160	4,643	4,637	3,166	-	-	3,166
有形固定資産計	98,242	10,222	6,604	101,860	74,256	5,851	27,603
無形固定資産							
借地権	35	-	-	35	-	-	35
商標権	28	3	2	29	10	2	19
ソフトウェア	297	419	283	433	139	56	294
その他	19	-	1	18	11	1	6
無形固定資産計	381	423	287	517	161	60	356
長期前払費用	100(39)	8	31(27)	77(11)	24	13	52
繰延資産							
-	-	-	-	-	-	-	-
繰延資産計	-	-	-	-	-	-	-

(注) 当期増加額の主なものは次のとおりであります。

		百万円	
(1) 建物	本社	保育園設立
		本社工場	本社T Cライン準備
		上野事業所	T W P工場
(2) 機械及び装置	本社工場	自動車用M T部門
			産業機械部門
			研究開発部門
		上野事業所	自動車用M T部門
(2) 工具器具備品	金型及び治具取付工具	自動車用A T部門
		切削工具	
		器具備品	
(3) 建設仮勘定	機械及び装置	
		金型及び治具取付工具	

2. 当期減少額の主なものは次のとおりであります。

機械及び装置	・ ・ ・ ・ ・	売却	53
		減耗による廃却	61

3. 長期前払費用の()内の金額は内数で保険料の前払であり、償却累計額及び当期償却額には含めておりません。

【引当金明細表】

区分	前期末残高 (百万円)	当期増加額 (百万円)	当期減少額 (目的使用) (百万円)	当期減少額 (その他) (百万円)	当期末残高 (百万円)
貸倒引当金	198	359	-	49	508
製品保証引当金	450	301	161	44	545
役員退職慰労引当金	349	58	-	-	407

(注) 貸倒引当金及び製品保証引当金の当期減少額のうち、その他は洗替等によるものであります。

(2) 【主な資産及び負債の内容】

(イ) 現金及び預金

項目	金額(百万円)
現金	3
預金	
当座預金	349
普通預金	261
別段預金	0
通知預金	8,700
小計	9,311
計	9,315

(ロ) 受取手形

(a) 客先別内訳

客先名	金額(百万円)
(株)タダノ	581
エンバイヤ自動車(株)	436
(株)加藤製作所	253
住友ナコマテリアルハンドリング(株)	47
三菱農機(株)	28
その他	40
計	1,388

(b) 決済期日別内訳

期日	平成21年4月	5月	6月	7月	合計
金額(百万円)	397	13	757	220	1,388

(ハ) 売掛金

(a) 客先別内訳

客先名	金額(百万円)
ダイハツ工業(株)	2,823
ジャトコ(株)	2,046
富士重工業(株)	1,301
マツダ(株)	815
いすゞ自動車(株)	749
その他	6,245
計	13,982

(b) 売掛金の発生及び回収並びに滞留状況

前期末繰越高 (百万円)	当期発生高 (百万円)	当期回収高 (百万円)	次期繰越高 (百万円)	回収率(%)	滞留期間(日)
(A)	(B)	(C)	(D)	(C) × 100 (A) + (B)	(A) + (D) ÷ (B)
20,940	95,831	102,789	13,982	88.0	66.7

(注) 消費税等を含めて計算しております。

(二) 商品及び製品

項目	内容	金額(百万円)
商品	手動変速装置用部品	122
	自動変速装置用部品	42
	その他	17
	計	181
製品	手動変速装置用部品	429
	自動変速装置用部品	380
	その他	80
	計	890

(ホ) 仕掛品

項目	内容	金額(百万円)
仕掛品	手動変速装置用部品	621
	自動変速装置用部品	349
	その他	364
	計	1,335

(ヘ) 原材料及び貯蔵品

項目	内容	金額(百万円)
原材料	素材	233
	購入部品	501
	計	735
貯蔵品	切削工具	72

(ト) 関係会社株式

銘柄	金額(百万円)
エクセディホールディングスオブアメリカ	9,067
ダイナックス	1,301
エクセディモーターサイクルインドネシア	948
エクセディタイランド	884
エクセディインドネシア	522
その他(13社)	2,169
計	14,893

(チ) 関係会社出資金

銘柄	金額(百万円)
エクセディ(上海)	3,200
エクセディ(重慶)	778
エクセディベトナム	344
ユーロエクセディ	246
エクセディ(広州)	29
計	4,600

(リ) 支払手形

(a) 仕入先別内訳

仕入先名	金額(百万円)
(株)東郷製作所	133
NOK(株)	89
竹中鋼板(株)	17
計	240

(b) 決済期日別内訳

期日	平成21年4月	5月	6月	7月	8月	合計
金額(百万円)	76	52	46	33	31	240

(ヌ)買掛金

仕入先名	金額(百万円)
阪和興業(株)	357
日本発条(株)	307
ディーケープロナック	289
ダイナックス	180
朝日アルミニウム(株)	173
その他	2,978
計	4,287

(ル)預り金

相手先	金額(百万円)
ダイナックス	5,416
エクセネット物流	235
ディーケービルサービス	79
その他	80
計	5,811

(ロ)退職給付引当金

項目	金額(百万円)
退職給付債務	9,753
年金資産	4,272
未認識数理計算上の差異	933
計	4,546

(3)【その他】

該当事項はありません。

第6【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	4月1日から3月31日まで
定時株主総会	6月中
基準日	3月31日
剰余金の配当の基準日	9月30日、3月31日
1単元の株式数	100株
単元未満株式の買取り 取扱場所 株主名簿管理人 買取手数料	大阪市北区堂島浜一丁目1番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社 無料
公告掲載方法	日本経済新聞への掲載
株主に対する特典	株主優待制度(100株以上の株主に年1回、グルメギフト券3,000円相当を郵送)

(注)平成21年6月24日開催の定時株主総会の決議により定款が変更され、会社の公告方法は次のとおりになりました。

「当社の公告方法は、電子公告とする。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行う。」

なお、電子公告は当社のホームページに掲載いたします。電子公告を掲載する当社のホームページアドレスは次のとおりであります。

<http://www.exedy.com>

第7【提出会社の参考情報】

1【提出会社の親会社等の情報】

当社には、金融商品取引法第24条の7第1項に規定する親会社等はありません。

2【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

- | | | |
|---------------------|----------------------------------------------|--------------------------|
| (1) 有価証券報告書及びその添付書類 | (事業年度 平成19年4月1日から
(第58期) 平成20年3月31日まで) | 平成20年6月27日
関東財務局長へ提出 |
| (2) 四半期報告書及び確認書 | (第59期 平成20年4月1日から
第1四半期 平成20年6月30日まで) | 平成20年8月8日
関東財務局長へ提出 |
| | (第59期 平成20年7月1日から
第2四半期 平成20年9月30日まで) | 平成20年11月13日
関東財務局長へ提出 |
| | (第59期 平成20年10月1日から
第3四半期 平成20年12月31日まで) | 平成21年2月13日
関東財務局長へ提出 |

(3) 臨時報告書

金融商品取引法第24条の5第4項及び企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号の規定に基づく臨時報告書であります。

平成20年11月6日
関東財務局長へ提出

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の監査報告書

平成20年6月26日

株式会社エクセディ

取締役会 御中

あずさ監査法人

指定社員 業務執行社員	公認会計士	牧 美喜男
----------------	-------	-------

指定社員 業務執行社員	公認会計士	宮林 利朗
----------------	-------	-------

指定社員 業務執行社員	公認会計士	今井 康好
----------------	-------	-------

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社エクセディの平成19年4月1日から平成20年3月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書及び連結附属明細表について監査を行った。この連結財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結財務諸表に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。監査は、試査を基礎として行われ、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社エクセディ及び連結子会社の平成20年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- () 1 . 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（有価証券報告書提出会社）が別途保管しております。
- 2 . 連結財務諸表の範囲にはX B R Lデータ自体は含まれていません。

独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

平成21年6月24日

株式会社エクセディ

取締役会 御中

あずさ監査法人

指定社員 業務執行社員	公認会計士	牧 美喜男
指定社員 業務執行社員	公認会計士	宮林 利朗
指定社員 業務執行社員	公認会計士	今井 康好

<財務諸表監査>

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社エクセディの平成20年4月1日から平成21年3月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書及び連結附属明細表について監査を行った。この連結財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結財務諸表に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。監査は、試査を基礎として行われ、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社エクセディ及び連結子会社の平成21年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

<内部統制監査>

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、株式会社エクセディの平成21年3月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。財務報告に係る内部統制を整備及び運用並びに内部統制報告書を作成する責任は、経営者にあり、当監査法人の責任は、独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。また、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準は、当監査法人に内部統制報告書に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。内部統制監査は、試査を基礎として行われ、財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果についての、経営者が行った記載を含め全体としての内部統制報告書の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、内部統制監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、株式会社エクセディが平成21年3月31日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価について、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

() 1. 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（有価証券報告書提出会社）が別途保管しております。

2. 連結財務諸表の範囲にはXBR Lデータ自体は含まれていません。

独立監査人の監査報告書

平成20年6月26日

株式会社エクセディ

取締役会 御中

あずさ監査法人

指定社員 業務執行社員	公認会計士	牧 美喜男
----------------	-------	-------

指定社員 業務執行社員	公認会計士	宮林 利朗
----------------	-------	-------

指定社員 業務執行社員	公認会計士	今井 康好
----------------	-------	-------

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社エクセディの平成19年4月1日から平成20年3月31日までの第58期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び附属明細表について監査を行った。この財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。監査は、試査を基礎として行われ、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社エクセディの平成20年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- () 1 . 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（有価証券報告書提出会社）が別途保管しております。
- 2 . 財務諸表の範囲にはX B R Lデータ自体は含まれていません。

独立監査人の監査報告書

平成21年6月24日

株式会社エクセディ

取締役会 御中

あずさ監査法人

指定社員
業務執行社員 公認会計士 牧 美喜男

指定社員
業務執行社員 公認会計士 宮林 利朗

指定社員
業務執行社員 公認会計士 今井 康好

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社エクセディの平成20年4月1日から平成21年3月31日までの第59期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び附属明細表について監査を行った。この財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。監査は、試査を基礎として行われ、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社エクセディの平成21年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- () 1 . 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（有価証券報告書提出会社）が別途保管しております。
- 2 . 財務諸表の範囲にはX B R Lデータ自体は含まれていません。